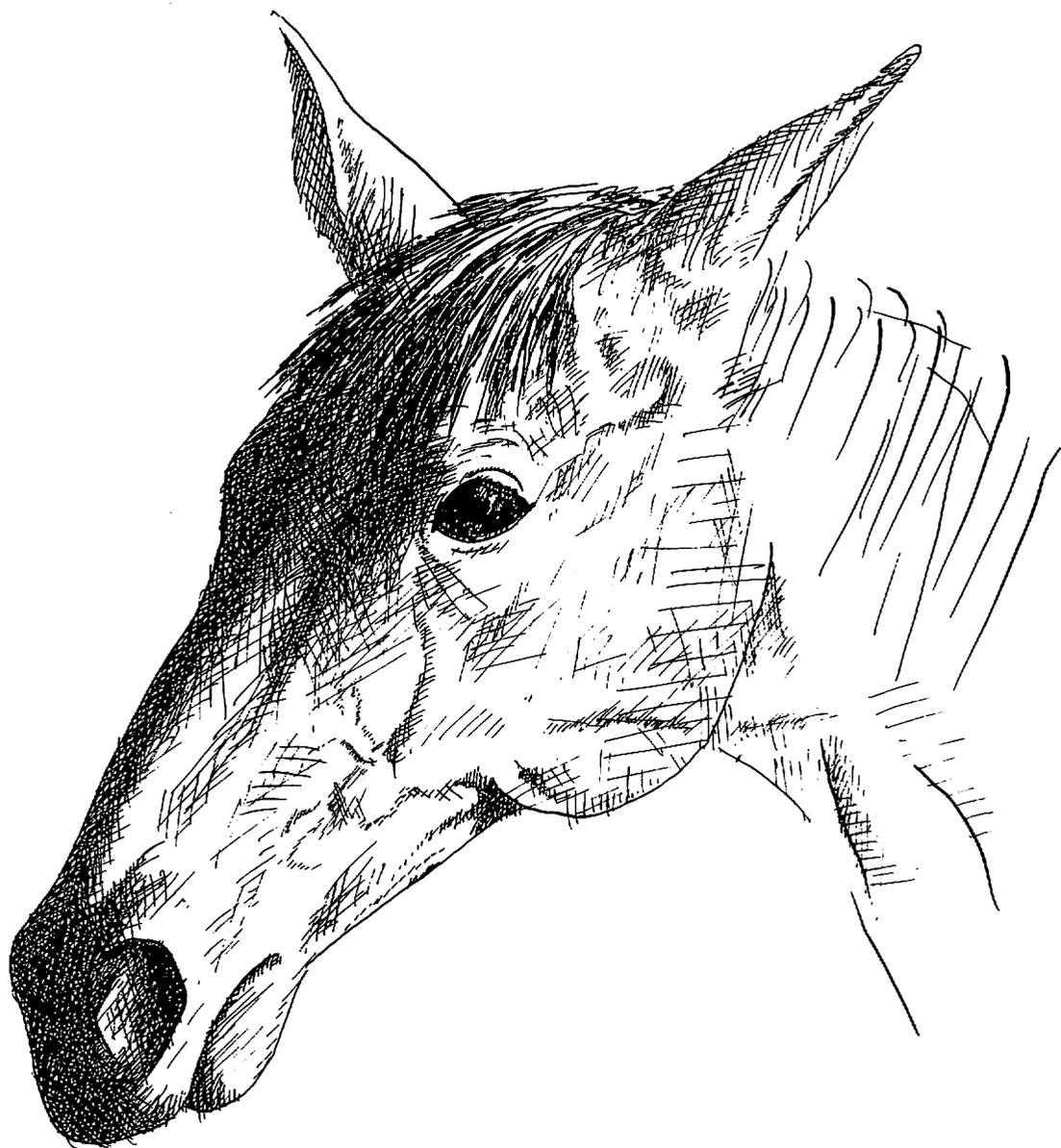


昭和61年度

No. **32**部報



北大馬術部

# 北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎  
作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかーる  
しろがねのえんざん ゆめぼうぼうたり  
たからかにいま そいななけわれ  
らしゅんめのほまれあり  
ほまれあり ほく だい ほく だい お  
おわがほこう われらしゅんめの  
ほまれあり

## 北大馬術部讃歌

- 一、春来たれば、大地光る  
銀の遠山 夢茫茫たり  
高らかに 今ぞ嘶け！  
われら駿馬のほまれあり
  - 二、時来たれば 旗をかざせ  
青雲の旅路に 意気軒昂たり  
高らかに 今ぞ嘶け！  
われら駿馬のほまれあり
  - 三、雲流れて 旅路遙か  
青春の孤杖 泥濘はばめど  
凜然と 進みて行かむ  
駿馬のほまれあるかぎり
- 北大！ 北大 おゝ我が母校  
われら駿馬のほまれあり

# 目 次

巻 頭 言 .....	小池 寿男 .....	1
「近頃思うこと」 .....	岡田 光夫 .....	2
机上馬術 .....	半澤 道郎 .....	3
前主将から .....	陣川 雅樹 .....	5
現在のクラブ状況 .....		6
主将から .....	服部 雅史 .....	10
行事報告 .....		12
戦績報告 .....		14
全日学報告 .....	加藤ゆうこ .....	22
馬 匹 紹 介		
ドン・ホッパー号 .....		23
北 姫 号 .....		24
北 皇 子 号 .....		25
北 紫 雲 号 .....		26
ノ エ ル 号 .....		27
北 銀 号 .....		28
北 玲 号 .....		29
スーパーパーボーイ号 .....		30
北 凜 号 .....		31
新 馬 紹 介		
北 駿 号 .....		32
北 英 号 .....		33
離 厩 報 告		
北耀号・北牙号 .....	半田 友子 .....	36
北 雷 号 .....	真鍋 直子 .....	38
北大水産学部活動報告 .....	村井 英樹 .....	39
東 京 O B 会 .....		41
卒 部 に あ た っ て .....		45
自己紹介・他己紹介 .....		54
福島光絵追悼集 .....		73
北海道大学馬術部名簿 .....		81

# 巻 頭 言

部 長 小 池 寿 男

ウマは運動性を主な目的として改良されてきた家畜であり、そのため運動に関連した肢の疾患が多く、従来も馬術部のウマの病気もほとんどが跛行を主体としたものであった。ウマの病気のもう一つの特徴は消化器疾患とくに腹痛を伴うものが多いことである。消化器は飼料から栄養を吸収して身体と労働を維持するために非常に重要な機能を持ち、これが健全に保つことが十分な能力を発揮させる上に大切な条件の一つとなる。幸いにも北大の部馬では、数年前に激しい下痢をするX腸炎が一頭あっただけである。しかし昨年11月にはひさしぶりで疝痛しかもやや異型の便秘疝がでて治癒までに少し時間が掛かった。

ウマの消化器疾患は痛みを主な症状とすることから、このような腹痛を示す病気を古くから疝痛とよんでいる。ウマの疝痛はその原因や症状によって便秘疝・痙攣疝・風気疝・変位疝など種々なものがあるが、最も多いのは腸内に飼料が詰まる便秘疝である。この疝痛はウマの腸には多くの狭くなった部分があるとゆう構造的な要因があることにもよるが、直接には飼養管理とくに水分の補給不足によることが多い。500kgぐらいのウマは1日に約25リットル程度の水と15,000カロリー前後のエネルギーが運動しない時でも必要とされている。十分に食欲があるとき、とくに青草を与えている時には水分が不足することは少ないが、過労や風邪などで食欲が低下したときには注意してやらなくてはならない。このような時にはどのくらいの量の水をのんだかを監視し、必要ならば人工的に与えなくてはならないこともある。

ウマは言葉で不調を訴えることが出来ないだけに、常にその体調の良否について留意し、早い時期に病気を発見して手当することが大切である。そのためには単に乗馬時のみでなく、普段の取扱いの時もそのウマの動作や表情あるいは癖などを知るように心掛け、変わったことにすぐ気がつくようにする。

我が国では1945年まではウマが200万頭ほども飼われており、どこでもウマを見ることができたが、現今では僅かに7万余となり特殊な地方以外では見る機会さえも少なく、従って馬術部に入部前にウマに接した事のある学生も少なく、ウマに対する知識が不足しており、事故や病気の発生が多くなる。今年度はウマの故障は比較的少なかったが、単に跛行などの運動器疾患だけでなく消化器も特徴を持っていることを認識してウマの基本体力の増加にも留意して、新しい年度の活躍に備えたいものである。

( 6 2 . 1 . 3 1 )

## 近頃思うこと

岡田光夫

64年国体も又一年近づいた。馬術連盟で国体への強化にたずさわっていると何か恐ろしい様な感じがする。一体どうなっていくのだろうと云う不安がひしひしとせまってくる。それにつけても北海道は広い。九州は北海道の半分の面積に過ぎないが、7つもの県がある。そして国体を開く機会は7回ある。それだけコンパクトで充分な準備の下に国体が開催されるわけである。それにひきかえ北海道では合宿するのにも馬を集め人を集めることのむづかしさはとも1、2時間走ると隣の県に行ける本州各県とはくらべものにならない。人馬の強化が勝利への絶対条件である事を考えると他の府県の様に一ヶ所に集めて訓練が出来ないのでどうしても札幌圏、旭川圏、帯広日高と云う様に拠点を細かく分けて集集訓練をしなければならない。それだけ効果が分散し、又時間も人手も多くかかる。その中で我が北大も今迄の伝統の中で国体優勝の一大原動力になってほしいと思うのは当然である。

最近どうも北大の名前が新聞紙上に報道される事が少なくなってきた。云うなれば部の成績が沈滞気味になってきた。沈滞と云うのは文字通り活気がない、進歩がない事を云う。しかし部員諸君の努力が足りないのではない、活気がないのではない。強いて云えば看板馬がようやく年をとり又は故障がちになってきた事が原因の様思う。最近ではスターライトからドンホッパーそして北皇子とうまく関係がとれていたものが、今の所これをうまくつなぐ馬が出ないのが残念だ。看板馬を作る事は大変なことである。今までは看板馬が充分活躍している間に、看板馬候補が出てきて充分時間の余裕をおいてそのローテーションがうまく行ってきた。幾分そのローテーションが狂いかけた今が一番大切な時でありこれを脱却しないと折角北海道で開催される国体に北大から出場し得ないはめになるかも知れない。そんな事態になっては多くの皆様に申し訳ない事になるわけでなんとか部の活動をもとにもどしたいと願っている。

今年は主将の途中交替(病気のため)と云うまれな出来事があったので途中引継いだ新主将は本当に御苦労であったと思う。その上多くの新馬をかかえ込んだ部の運営をどうやって行こうかと云う悩みが、私の病院入院中にも見舞かたがたの相談にあらわれていた。結局何の力にもなれず申し訳ない事をしたが敢えて弁解させてもらえば、どうにもならなくなった所で受けた相談が多かったとしか云えない。

この部所有馬の世代更新をどうやっていくか? この問題には、馬の更新には一定の定規を作り、いやしくも情にとらわれて(馬に対する愛情)将来見込みのない馬をいたずらに繁養する事をしない。内の能力を見きわめ馬の将来性を買って根気よく調教する。調教に失敗した馬は、もし性質もよく能力もあれば再調教する為に一度新馬にもどしたつもりで騎乗していく等々いくつかの方法がある。そのいずれもが部員の力だけで達成するものではない。それには先輩の知恵が、力が必要なことは申すまでもない。今、部員の中にもこの状態を脱却したいと云う考えが湧き出てきたときに皆さんの力を期待してやまない。

# 机上馬術

第6代部長 半澤道郎

現在馬事公苑の次長の千葉幹夫君（北大馬術部昭34年卒）からは多くの馬術関係の図書を頂いているが、その中でもGeneral Decarpantry著になる“Equitation Academique”の訳本は、千葉君自身が故人となられた日本の名馬術家の遊佐幸平、城戸俊三両先生の後を受け継いで翻訳大成された苦心の著書であり、馬術家のバイブルといわれる世界的名著であるだけに誠に貴重で座右の宝に値するものです。

古来馬術先進国の多くの馬術家が遺された名著が多く、現在でも毎年夥ましい数の馬術関係図書が世界各国から発刊されています。私は語学的能力を欠き、名著を収集する財力も無く、ほんの一部分の馬術関係の図書を手にするに過ぎないので、余り大きな事は云われませんが、馬術書の効用について日頃感じていることを、千葉君の力を借りてDecarpantry 將軍の名言を通して述べて見たいと思います。

馬術の基本原則は騎手の意志に対する馬の服従である。馬が騎手の命令を理解したということは、命令に対して服従して運動を実施することであって、この服従するという根本原則は如何なる調教に於ても必須であり、妥当であるとし、馬の調教法は服従の原則の実行を漸進的に発達させることであると述べている。命令と服従という人と馬との約束の伝達形式（言葉に対応）が繰返して行う訓練によって次第に増加して、高度の運動ができるようになるのであって、この為には特有の手段・方法がある。この手段・方法は如何にして習得することができるのであろうか。

馬術の修業は良く調教された馬に乗って、優秀な技術を持った教師の指導を受けることが最適であるが、この両者に恵まれることは非常に困難である。それで馬術の修業は良い馬術書（乗馬教本）を読み、研究して直接の指導を補い、調教の完成した馬に教わることなしに自分で調教を体験し、総ての馬術に通じる原則を尊重しながら、巧妙、微妙な手段・方法（扶助操作）の体得を訓練することが必要である。

馬術修業を志すものは古人の遺した著書を精読して、技術に対する広い教養を積まなければならないと教えている。書物に書かれていることは、その運動形態や実施手段が著者により千差万別であり、その取捨選択は誠に困難で、習得に混乱が生ずる。馬術の原則からすれば結局同じ事を書いているのであるが、そのやり方に夫々個性があり、そのやり方の中に馬術上の真理を理解するために有益なものが含まれているので、すべての本は何等かの利益があると述べられている。

馬術書の読み方は、先ず全体を眺め、目次、序文等によって記述の構成と中心主張を判読し、次に各章を読んで、既読の諸書及び経験から得た知識を対照して、諸方式との一致点及び差異点の発見、比較に努め、その著書の所感を備忘に留め、その後の経験によって何時でも所感を修正するようにし、特に役に立つと思われる様な項目は索引を作ってまとめるると有益な参考リストとして便利であると述べている。

また本で得た知識を実際にやって見る場合には慎重な態度が必要で、修業する者は「個性的な手段」を習得する必要がある。これは各自の「馬術感覚」<sup>(註)</sup>に応じたもので、夫々の人の気質、性格、才能、

巧妙さ等がその基底になる。長期間の訓練を通じて、少しずつ経験によって体得形成されるものである。各種のやり方を経験していくうちに自らに最も適したものがある筈で、自然にそのやり方に親しむようになるもので、その騎手の乗り方（調教方法）が形成される。然し馬によってその騎手のやり方でない方がかえって良い場合もあるので、自分の好みだけで他の方法を急避してしまっはいけないと教えている。本の説明だけでは修得不可能なこと（例えば総合扶助など）も沢山ある。これは限の前で実施して手本を示し、質疑に答え、実際訓練で適切な助言のできる教官の指導によって初めて修得可能である。

以上が馬術書についての Desanpatry の教訓の概要である。本来馬術は馬に騎乗して意の儘に馬を運動させることで、本を読んだだけでは馬術を修得できない事は勿論である。然し60年近く馬に乗り、多少馬術関係の図書を読んだ私は、文献を読み乍ら馬術を楽しむことができるようになった。私はこれを「騎乗」をもじって「机上馬術」と呼ぶことにした。文献の多くは紙に印刷され誌されているので、「紙上」又は「誌上」でもよい。机に向って読んで初めて机上であるが、時には枕上であったり床上であったり、寝乍ら天井を馬場にする天井馬術になることもある。馬場馬術の運動課目を見乍ら、また大障害物の図を見乍ら、騎乗している心算で、課目や図形、障害物やコース等状況に応じて、拳、脚、体重等の扶助を頭の中で操作するのであるから、その演技は全く自由自在で、時には失敗し、時には完璧に遂行することができる。課目毎に練習することも、全課目を通じて St. George の運動も見事に乗りこなすこともでき、大きな障害も野外騎乗もこわごわ乍らも完走できるから不思議である。然し実際に馬に乗って味う千変万化の楽しい馬術感覚註は残念乍ら机上馬術では満喫することはできない。

註 拳で感ずる馬の顎の柔軟性、騎座、脚で感ずる馬の後軀の屈撓性、拳と脚の最も些少な指示で完全な馬の服従が得られた時に感じる軽快性などで受ける感覚で、馬体全体から受ける感覚であると思うが、極端には拳の感覚と脚を含めた騎座の感覚と言っても良いかも知れない。

- 1987.3.24 -

社会保険 国民健康保険 指定医  
老人医療 生活保護法

# 庄内歯科

歯科医師 庄内貞夫

札幌市白石区本通2丁目北81番37号 ☎861-2504

# 前 主 将 か ら

陣 川 雅 樹

クラブという団体の中で、一番大切なものは何であろう。勝つ事か？、いやそれは「和」だと思う。お互いの考えをはっきり言って、話し合い、理解し合って、クラブの考えというものを持つこと。それが「和」であろうし、そうすることによって馬の調教の方法、練習方法、クラブ運営というものが決まってくる。そして、はじめてそこにいい人馬、強いクラブ、目標である全日学で勝つことが生まれてくるのだ。

まず、考えなければならないのは、クラブの中の個人ではなく、クラブという「和」の中にいる自分を見つめ、クラブというものを考えることである。どんなにがんばってみても、自分1人だけでは何事も成し得ないのだから。

そして同輩とよく話しをし、その学年の考えというものを持つこと。そしてその考えを主将や上級生にぶつけなければならない。上級生は下級生をぐいぐい引っ張り、下級生は上級生をつき上げるようになれば、クラブ全体としては大きく前進しているであろう。

さて、この一年間ふり返ってみて、はたして自分たちは「和」をつくれたであろうか？ 去年の9月西村を主将としてスタートしたわけであるが、結局、主将の交代劇へと至ったのは、やはり4年目の中でよく話し合いが行なわれていなかったことにあったと思う。話し合いとはミーティングのことではなく、普段の会話のことである。練習後や夕当のときの手入れの時、メンを食べる時、酒を飲む時、別に馬の調教やクラブの運営を堅苦しく話す必要はない。馬やクラブとは全々関係ないことでも話しをしていけば、“ああ、あいつはこういうやつなんだ、こんな考えを持っているんだ。”と思う。そのことが一番大切なことだと思う。

今、クラブは3年目1人、以下2年目・1年目10数名。主将の服部はもちろんのこと、2年目もクラブの中で重要なポストを任せられて、大変だと思う。が、今はそんなことをあれこれ考えてもしかたがない。主将は下級生の話しをよく聞き、クラブ員がどう考えているのか、クラブがどう動いているのかを十分に把握し、自分の考えを全員にはっきり示すこと、また下級生は主将と上級生と話しをする機会を、待つのではなく、自分からその機会を見つけ、できるなら毎日でも主将と、同輩と話しをしてほしい。

自分のやっているクラブを知り、クラブの中での自分の役割を知ること。主将から下級生まで全員でクラブをつくり、強くして行く、という意識を全員が自覚しなければいけない。

## 現在のクラブの状況

### 〈 役 職 紹 介 〉

副 将	主将の事故のため、出だしから大忙しだった。パニックに陥りそうだった馬術部をよくまとめてくれました。しかし、主将が復帰してから影が薄いのはなぜ？	金田
主 務	マネージャー。馬術部を運営していくには欠かせない存在である。いつも忙しく走りまわっているが、イヤな顔一つしない中野さんは偉大だ。	中野
会 計	大切な資金の管理。部費を集めたりする。滞納金は早く払いましょう。	金田
馬匹・薬品	馬の健康管理。獣医的存在であり、馬がケガしたとの声を聞きつけるやいなや、すぐにその治療に当る。	加藤
飼 料	馬の食料の管理・手配を担当。一体20～40kgもある飼料は皆で飼料庫へ運ぶのだが、どんな女の子でも、馬術部に一ヶ月いたら軽々運べるようになる。	高野 小嶋
作 業	土盛り、馬場らし直しなど作業の指揮を担当。長い肉体労働に終止符を打てるのは彼のみ。	高野
副 務	主務の弟子的存在。本来はアルバイトの手配、OBに連絡をとるなどの雑用をするはずなのだが……。	友久
記 録	戦績やミーティング、部員総会などの内容を記録する。	湯浅
馬具・備品	遠征が始まると本分を発揮。馬具・備員の準備、修理、手配の担当。細かくてなかなか大変な役職である。	大歳 五味
文 化	ある時はカメラを持って馬場内を走り、ある時はビデオカメラを担ぎ馬を追う。駅伝大会 雪中ラグビーなどのイベントのアレンジもします。	仲村 古川
コ ン パ	コンパの関すること、日、場所、予算などを具体的に決める。コンパ代未納者には蹴られても殴られてもくっつきまわる。	森
レ シ ー ト	生協レシートを部員から集め、その総額の集計を担当。総額の1%は大切な部費に化ける。	小嶋
部 報	「原稿の締め切りは○月△日です。」「えーっ」「どうしてー」と単なる憎まれ役。それにもめげず、この部報を製作しました。	石川 森

## 〈クラブ概況〉

- 部 員 15名(1年め7名、2年め7名、3年め1名、うち女子4名)
- 馬 匹 11頭
  - ドンホッパー(17才 騙 軽半血)過去12年間連続全日学出場。昨年は、障害、総合で権利をとり、まだまだ元気なことを証明してくれたが、やはり年齢から馬体的には無理がきかず、今年を最後に引退させることも考えている。
  - 北 姫 (14才 牝 サラ)一度調教を崩してしまった難しいところのある馬で、年齢も考え合わせて離厩も考えたが、馬の能力としては全日学3dayの権利をとる実力はあるし、体も丈夫なので、OBより援助をお願いして残すこととした。
  - 北 皇子 (12才 騙 サラ)昨年は馬体的理由から活躍できなかったが、調教的にはかなりのレベルに達しており、今年は北大の看板馬として復帰させたい。
  - 北 紫 雲 (10才 騙 サラ)性格的に若干の難があるものの、調教に進歩がみられたので今年は期待したいところ。ただし年齢等も考え合わせると、今年は見極めの年とならざるを得ない。
  - ノ エ ル (13才 牝 サラ)昨年、障害、総合において全日学出場までもう少しであったので、今年こそは権利を獲得したい。ただし馬体が丈夫ではなく、年齢、さらには障害落下の癖等の問題もあり、やはり今年が見極めの年であろう。
  - 北 銀 (8才 騙 サラ)将来北大の主力馬としての活躍を期待しているので、今年は大日学にデビューさせたい。これ以上もたもたさせるわけにはいかない。
  - 北 玲 (7才 牝 サラ)初期調教をOBの長屋さんをお願いした。今迄順調に調教がすすんでいるので今年は大日学にデビューさせて北大の戦力としたい。
  - スーパー・ボーイ (6才 騙 サラ)現在OBの南部さんに調教をお願いしている。小障程度なら確実にこなせる馬にさせたい。
  - 北 凜 (6才 牝 サラ)調教2年め。順調にすすんでおり、将来期待したい。
  - 北 駿 (5才 騙 ア・サ)左前肢がいわゆるエビで競馬からあがってきた。素質をうまく育てて丁寧に名馬に仕立て上げたい。OBの長屋さんに調教を依頼した。
  - 北 英 (8才 騙 サラ)調教1年め。馬体は小さいが性格はよい。半澤先生に調教をお願いしている。
- 練習時間 夏— AM5:30~7:30  
冬— AM6:00~7:45

## 決算報告 昭和61年1月～12月

### 収 入

		年小計	計	
部 費 <sup>1)</sup>		373,000	373,000	
アルバイト	札幌競馬場	1,334,992	4,170,952	
	朝日新聞社	465,700		
	道自馬・セレクション仮厩建て	750,000		
	その他	1,620,260		
補助	学馬連より飼育補助	1,128,000	2,988,417	
	道馬連より44国体強化指定馬補助	北皇子 <sup>2)</sup>		629,348
		北玲 <sup>3)</sup>		114,522
	後援会より	430,000		
	輸送補助	263,200		
	体育会よりクラブ強化費	104,000		
	飼育費(半澤先生より)	300,000		
	寄付金	19,347		
滞納金		1,106,343	1,106,343	
企画画	半澤杯	207,500	363,421	
	教養祭	103,935		
	馬術講習会	51,986		
私用電話料		13,360	615,148	
その他		601,788		
計			9,617,281	

1) 1～7月 ￥2,000/月 8～12月 ￥1,000/月

2) 60年10月 審査会、61年4月審査会にて選考

3) 61年10月 審査会にて選考、

61年11月～62年3月 入金予定

### 支 出

		年 計
飼料		1,176,240
蹄鉄		1,574,300
薬品		265,812
輸送	ガソリン代	282,637
	遠征・馬運車代 <sup>1)</sup>	780,000
車両維持費 <sup>2)</sup>		700,750
作業		21,831
馬具・備品		66,782
文化		136,719
企画画	半澤杯	108,563
	部報	250,000
	その他	80,773
乗馬登録料・連盟会費等		251,000
雑費		193,541
たてかえ	エントリー料	494,500
	その他	560,702
馬運車購入費		580,000
電話料金		207,815
計		7,731,965

1) 7月公認(帯広) 8月北日(帯広)

道体(旭川) 10月東日本(東京)

11月全日学(東京)

2) 自動車税・車検・保険・修理・

整備 諸費用

○ 飼料

現在の投与量は次のとおり

えん麦……1ヶ月約1t 1,900円(30kg)×34袋≒6万5千円

ふすま……1ヶ月約375kg 1,000円(25kg)×15袋≒1万5千円

ヘイキューブ……1ヶ月約1,350kg 2,200円(45kg)×30袋≒6万6千円

(冬のみ)

乾草……1ヶ月約150梱包 手伝いの代償として大半をまかない、不足分は購入。夏期は刈った青草のみ。

稲わら……夏期間に使用。堆肥との交換と農場のバイトによる。

麦乾……冬期間に使用。年間300本はバイトによる。

今年、冬期の馬体強化のために、ヘイキューブ量を増やしたが、牧草投与量を増やすことを考えてみたい。夏期は頑張って青草刈りに励んでいるのだが……。とにかく、健全な馬体あつてのクラブである。手抜きは許されない。

# 太田装蹄所

## ☎782-6084

札幌市東区伏古10条1丁目15番5号

# 主 将 か ら

服 部 雅 史

## 〈現状とその問題点について〉

単なる遊びで馬に乗っているのではない以上、クラブとして確固たる目標がなければならぬ。ここ数年来、全日本学生馬術大会に3頭以上の団体を組んで出場することがずっと念願であった。一昨年、その念願は果たされた。その成果は評価されるべきものであろうし、また、後輩として見習うべきものであると思う。しかし一方、それが後に続く性質のものでなかったという事実は、これから先のクラブを考える上で、念頭に置いておくべきことでもあると思う。

関東の私立大学における徹底した合理的なやり方を耳にはさんだり垣間見たりする。有能なコーチ、合理的な練習方法、優秀な馬、授業に拘束されない十分な練習時間、設備、そして騎手のキャリア。こんな好条件を備えた大学に対して一体どこまでくい込めるであろうか。こういった疑問は我々の頭から離れなかった。しかし、あれやこれやと考えを張りめぐらせても何も始まらないのだ。それよりも大切なことは、自分たちのやり方で、頭を使いながら、クラブがそれ全体としてこれ以上無理だということまでやっただろうかという問題である。個人的に一生懸命頑張ったとしても、その方向性が一つに結びつかなければクラブとしての団結も、戦績も弱い。それをうまくまとめていくのが主将の役割である。

それでは現状はどうであろうか。残念ながら貧困であると言わざるを得ない。そこで現状の問題点を具体的に考えてみることにする。

- ① 各個騎乗が原因となり、また結果でもあるわけだが、個人レベルの考え方が漫延しているということ。そのために、クラブの皆の馬であるという意識が薄れ、チーフの馬であるという意識が強くなる傾向があること。
- ② 年々継承される、クラブとしての確固たる練習方法や練習体系といったものが確立されていないために、年毎にやり方が違ったり、さらには各個騎乗のせいで個人個人でバラバラだったりして、結局調教方針や練習内容が全く個人のレベルの問題になる傾向がある。世代の断絶がなく、練習に一つの方向性みたいなものが継承されれば、OBとの交流もスムーズで活発なものとなるはずである。
- ③ 普段からの部員間の話し合いの不足のために、他人が練習でどんなことをしているのか知らないといった事態に陥りやすい。また下級生は、自分のレベルや問題点、現在の練習の意味などについて知らされる機会を失う。
- ④ 収入をアルバイトに頼る比重が大きくなりすぎて、時間的余裕の不足から精神的な余裕も失われ、馬に関してのケアが薄れる傾向は否めず、さらには、バイトをこなすことがクラブを一生懸命にやることだという倒錯すら起きてこないとは言えない。
- ⑤ 現在、馬術というものに対する思い入れが今一つ不足している様に思う。無我夢中になって賭けている人間が何人いるだろうか。そして一人一人にもっと食欲さが欲しい。

細かな問題を考えればまだまだ出てくるだろうが、当面としては、これらのことを考えている。そして、これらが解決されれば、ゆくゆくは全国でもかなりのレベルに到達できるであろうという見通しと確信はある。

### 〈今後の方針について〉

馬の調教は一朝一夕にできるものではない。毎日毎日の地道な作業の繰り返しを何年間も積み重ねることによってはじめて成し遂げられるものである。そのような馬の調教ということを基盤としているこのクラブの性質上、練習方法や調教方針を年毎に大幅に改革したり試行錯誤したりすることは賢明ではないだろう。また一方で、乗り方の違いなどという問題はさほど重大な問題ではなく、結局は、いかに馬を動かせるかということであると思う。

自分が主将となって、前項の問題点を踏まえてまず思うことは、クラブとしての練習方法、あるいは馬の調教方法といったものを確立したい。これはすぐに決められるものでなければ、自分一人だけでできるものでもない。ある基盤をもとに試行錯誤して、次の最高学年となる者たちと話し合いながら自分たちなりのやり方を見つけ、またそれが継承されねばならない。そのためにも、また人が何を考え、しようとしているのかお互いがわかり、クラブ全体として上がっていくためにも、また練習に対する問題意識の増加のためにも、ミーティングを頻繁に開き色々話し合える場としたいと思っている。

さらに、毎日の練習での乗りかわりはあたり前に行い、自分がチーフでない馬で試合に出たり、遂にはチーフ交代ということも容赦なく行っていくべきだと考えている。なぜならば、一つには一頭の馬に変に固執して壁をつくってしまうことを避けたいこと、そして前述の様にクラブの馬であるという意識をあたり前に持って欲しいこと、さらには、そうすることによって技術的進歩が図れると思うからである。

現在、最高学年が一人という状態で乗り手の技術は未熟、馬は過去の財産に頼って新しい戦力がまだ育っていないという状況の中、必要な事は人も馬も同時にレベルアップすることであり、そのためには、内容を十分に検討した部班運動を練習の中心として確実にこなしていくことが最も有効であると考えている。

そして、基本的運動を確実にするために座骨を使った正反撞を排除せず、積極的にとり入れていきたいと考えている。

漫然とした練習、惰性的な練習、自己満足的な練習に陥らないために、自分自身の技術と馬の調教段階を常にチェックすることは重要なことである。また、定期的に人も馬も最高の緊張状態をつくることは意味のあることである。そういった理由から、定期的に馬場、障害両方の経路回りを行いたいと思っている。これは試合慣れするためにも役立つと考えられる。

部員がやる気を促され、また、やる気のある部員はどんどんやることのできるクラブにしなければならぬ。その一方で、いろいろな考え方の部員が共存できるクラブにしたいと思っている。そのためには、実力主義的なシビアな一面と、情のある寛容さの一面を持ちあわせていなければならないと考えている。

最後になりましたが、小池部長、岡田監督、半澤先生、そしてOBの先輩方、これからもどうかよろしく御指導の程お願いいたします。

## 昭和 61 年度 行事報告

4月5、6日

第25回七大戦（於京大）

障害で大勝利。馬場でぼろ負け。北大らしい闘いぶりです。

4月12～19日

馬術講習会

多くの1年生はだまし、だましされてはいつてくる。

4月26、27日

第2回選考審査会（於碧雲C）

やった！陣川兄すごい。ギャランおめでとう。

5月5日

第14回半沢杯記念馬術大会（於北大）

この時のために障害ペンキ塗り、仮厩たてとごころうさま。

5月15～19日

新歓合宿

一年目がやっと当番おぼえました。

5月18日

第12回三大戦（於酪農大）

5月25日

北日本学生馬術選手権大会（於 北里大）

5月27日

新歓コンパ

うけない芸で、どんひんしゅくでした。

6月28、29日

第21回北海道自馬馬術大会（於北星RC）

中野兄新人障害飛越で3位。やったね。でも他の先輩はかんばしくなかったです。競馬場バイトもあつてごころうさま。

7月11～13日

全日本学生馬術選手権大会（於馬事公苑）

7月19、20日

第11回北海道地区馬術大会（公認）

（於畜大）

高須兄もこられての畜大への大遠征。

7月22日

北駿号入厩

8月3日

北耀号離厩式

よくかまれたな。

8月8～11日

第22回北日本学生馬術大会（於畜大）

ドンが総合と二走、ギャランが総合の権利をとる。

8月13日

北瑛号入厩

8月14～20日

日高合宿

戦死者約2名。

8月22日

北牙号離厩式

元気でいてね。

8月23、24日

第33回北海道馬術大会、北海道地区予選会

（於旭川競馬場）

8月31日

石狩RCクラブ内試合（於石狩RC）

一年目が初めて出た試合。

9月6、7日

岩見沢親善試合（於岩見沢RC）

9月16日

役員交代コンパ

9月28日

札幌市民体育大会（於北星RC）

- |                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| 10月5日                       | 12月6日     |
| 第3回44国体選考審査会                | 馬術講習会     |
| 長屋さんありがとうございます。お嬢よくやった。     | 12月7日     |
| 10月10日                      | 北雷号離厩式    |
| 駅伝大会                        | 12月21日    |
| めっさしんどいの。                   | 忘年会       |
| 10月16～27日                   | 12月25～30日 |
| 全日本学生馬術大会（於馬事公苑）            | 冬合宿（前半）   |
| 服部兄はせっかく権利をとりながら出場できず残念でした。 | 12月31日    |
| 11月9日                       | もちつき      |
| 山下杯（於酪農大）                   | 1月2日      |
| 11月15、16日                   | 初乗り       |
| <b>FMC</b>                  | 1月3～9日    |
| いっぱい友達できたど！                 | 冬合宿（後半）   |
| 11月16日                      | 2月6日      |
| <b>OB、水産対抗戦（於北大）</b>        | 雪マツリ外乗    |
|                             | 3月8日      |
|                             | 追いコン      |

## 昭和 61 年度 戦績報告

### ★対東北大学定期戦（3月30日 於 北大）

仙台から鹿野・村田・渡辺の三雄を迎え、一方北大は荒井・大歳・中野がドンホッパー、北姫、北銀にて対抗戦。結果は北大の勝利。2年目の1勝目である。

使用馬匹……ドンホッパー、北姫、北銀  
 北大選手……荒井、大歳、中野  
 戦 績……勝

### ★七帝戦（4月5日 於 京大）

北大選手……陣川、高田、服部  
 戦 績……1位 京大 2位 東大 3位 北大

### ★第2回44国体馬術競技強化指定馬選考審査会（4月26、27日 於 碧雲クラブ）

コンビをくんで、1週間の陣川兄と北皇子。冷たい雨のふる中、部員に見守られ、みごと一位。うれしいやら、さむいやら。

＜馬 場＞				得 点
1位 田 中	サンルイスシチー	函 館 競 馬 場		392
2位 吉 崎	コパスパイス	札 幌 楽 馬 会		376
3位 齋 藤	ラングレイ	石 狩 R. C.		374

＜障 害＞				一 走 目	二 走 目
1位 陣 川	北 皇 子	北 大 (4)		0	-4
2位 長 屋	カリスタヒーロー	北 星 R. C.		0	-8
3位 布 施	アテナグランド	札 幌 R. C.		-4	-4.25

### ★第14回太奏杯・半沢杯・河田杯記念馬術大会（5月5日 於 北大）

好天にめぐまれた半沢杯。北皇子、ドンホッパーと健闘したものの、惜しくも上位を他のクラブ・大学にうばわれ残念。しかし下級生はハコ番から交通整理まで、本当にいそがしかった。

＜複 合＞				馬 場 減	障 碍
1位 吉 崎	コパスパイス	札 幌 楽 馬 会		-126.67	-5
2位 布 施	サ ミ ッ ト	北 星 R. C.		-134.33	0
3位 武 者	騾 龍	酪 農 大		-143.67	0
6位 中 村	ノ エ ル	北 大 (4)		-155.67	-0.25
7位 福 島	北 姫	北 大 (4)			
＜3級馬場馬術＞				得 点	
1位 久 保	バッシングハヤテ	札 幌 競 馬 場		382	
2位 上 野	サクラプリンス	酪 農 大		357	

3位	西澤	アヴラル	札幌競馬場	355
10位	服部	ドンホッパー	北大(3)	321

<小障碍>

				減点	time
1位	木下	モデルミラー	フロンティアRC	0	55"75
2位	藤沼	トウシンファスト	札幌競馬場	0	55"41
3位	登内	アルグレイ	石狩R.C.	0	55"36
7位	佐多	北玲	北大(4)	0	54"31
9位	古川	北皇子	北大(2)	0	48"07
11位	北川	ドンホッパー	北大(2)	0	43"09
19位	陣川	北銀	北大(4)	-13	

<新人・新馬>

1位	佐伯	サミット	北星R.C.	0	55"85
2位	五十嵐	モデルミラー	フロンティアRC	0	55"53
3位	安永	騾龍	酪農大	0	54"37
6位	高野	北銀	北大(2)	0	53"00
14位	金田	ノエル	北大(2)	-4	

<中障碍>

1位	斎藤	アルグレイ	石狩R.C.	0
2位	長屋	マドラス	北星R.C.	-3
3位	陣川	北皇子	北大(4)	-4
4位	服部	ドンホッパー	北大(3)	-4
	福島	北姫	北大(4)	失権

★3大学定期戦(5月18日 於 酪農大)

酪農学園大学で、騾龍、騾鶯、騾優の名馬をつかって、加藤、中野、山本の3選手が出場。騾龍で勝負が決まるという波乱。加藤の活躍で北大の勝利。2年目の2勝目である。

使用馬匹……騾龍、騾鶯、騾優

北大選手……加藤、中野、山本

戦績……1位 北大 2位 酪農大 3位 畜大 最優秀選手 加藤

★第21回北海道自馬馬術大会(6月28日 於 北星R.C.)

北星乗馬クラブにて。昨年と比べると成績の面で少し劣るが、陣川兄の北皇子号はM級Bで3位、Jump offというのは頼もしいものでした。また、新人新馬で中野が3位、彼の強運ぶりが表れました。M級Cでは高田姉が落馬の瞬間、マリナーの頭絡が外れるというアクシデント。馬装はしっかりやりました。

<総合、馬術>

				得点
1位	田中	サンルイスシー	函館競馬場	388

2位	佐藤	カナデルホース	札幌彗星乗馬会	375
3位	平石	ラングレイ	石狩 R.C.	359
14位	陣川	北皇子	北大 (4)	237
16位	中村	ノエル	北大 (4)	205

<3級馬場馬術>

1位	武笠	シャングリ・ラ	碧雲クラブ	397
2位	宮竹	騾駿	酪農大	370
3位	渡辺	聖麗	北星 R.C.	367
13位	服部	ドンホッパー	北大 (3)	329

<L 級>

1班					ジャンプオフ
1位	佐伯	マドラス	北星 R.C.	0	42" 34
2位	西口	コジロウ	十勝柏友会	0	48" 59
3位	モニック モーゲル	ニューヨーク	日高 K F	0	43" 02
7位	北川	北皇子	北大 (2)	-4	
2班					
1位	佐藤	聖麗	北星 R.C.	0	
2位	佐藤	コジロウ	十勝柏友会	-4	
3位	安田	ザ・シルバー	#	-4	
8位	山本	ノエル	北大 (2)	-8	

<M級B>

1位	布施	チアガール	北星 R.C.	0	(ジャンプオフ)
2位	宮竹	騾駿	酪農大	0	-15
3位	陣川	北皇子	北大 (4)	0	-15.75

<新人>

1位	小倉	ニホンピロパワー	浦河高校	0	time 68" 76
2位	増元	ザ・シルバー	十勝柏友会	0	68" 44
3位	中野	北紫雲	北大 (2)	0	66" 89
8位	高野	北銀	北大 (2)	-4	

<新馬>

1位	布施	マドンナ	光星高校	0	68" 80
2位	開田	カスミリュウ	フロンティアRC	0	68" 62
3位	原	ウィンデイ	十勝柏友会	0	67" 10
6位	加藤	北玲	北大 (2)	-1.15	

<MC級>

1位	山田	アパッチエース	岩見沢 R C	0	(ジャンプオフ) 35" 08
----	----	---------	---------	---	--------------------

2位	柳原	ツバサ	岩見沢RC	0	36"06
3位	佐藤	ベンハーレー	札幌彗星乗馬会	0	38"00
9位	中村	ノエル	北大(4)	-12	
	高田	北紫雲	北大(4)	失権	

★第11回馬術連盟公認北海道地区馬術大会(7月19、20日 於 帯畜大)

北雷デビュー戦。かたずをのんで見まもる部員たち。「ボン太、とんでくれ……」しかし彼はやはり頑固だった。

<3級馬場馬術>

				得点
1位	土井	パーソン	日高KF	392
2位	土井	シャダイオー	〃	386
3位	宮竹	騾駿	酪農大	370
10位	服部	ドンホッパー	北大(3)	331
14位	陣川	北皇子	北大(4)	291
15位	中村	ノエル	北大(4)	286

<標準中障碍>

				減点	(ジャンプオフ)
1位	土井	ルミウエール ウエースト	日高KF	0	30"03
2位	土井	パーソン	〃	0	30"09
3位	清水	柏星	帯畜大	0	32"86
16位	陣川	北皇子	北大(4)	-4	
24位	服部	ドンホッパー	北大(3)	-15	
26位	中村	ノエル	北大(4)	-24	
	福島	北姫	北大(4)	失権	

<二段階>

					time
1位	土井	パーソン	日高KF	0	(46"40 42"77)
2位	久保田	ザ・シルバー	十勝柏友会	0	(49"63 45"57)
3位	岡本	コジロウ	十勝柏友会	0	(45"56 45"99)
	福島	北姫	北大(4)	失権	

<中障碍飛越選手権>

				減点	ジャンプオフ
1位	掛川	騾駿	酪農大	0	0 34"83
2位	陣川	北皇子	北大(4)	0	0 37"50
3位	長屋	マドラス	北星RC	0	-4 32"43
	服部	ドンホッパー	北大(3)	(オープン)失権	

<一般小障碍>

1位	白井	サモンサ	日高KF	0	31"31
2位	モニック フォーゲル	ジェロニモ	日高KF	0	35"10

3位	島山	ニューヨーク	日高 K F	0	35"32
7位	荒井	北皇子	北大(2)	0	41"81
16位	陣川	北銀	北大(4)	-3	
18位	高野	北玲	北大(2)	-3	
24位	高田	北紫雲	北大(4)	-9	
	大歳	北姫	北大(2)	失権	

<婦人・壮年>

1位	川久保	ウィンディ	十勝柏友会	0	
2位	田上	ジャンポリバー	"	0	
3位	安田	コジロウ	"	0	
	真鍋	北雷	北大	失権	

★第22回北日本学生馬術大会(8月8~11日 於 帯畜大)

ステイプル。十勝坊主でまっていた私の前を黒い弾丸が走り去った。「ミヨコ……」後から福島姉が。再びコースへともどり根性で完走したがタイムオーバーであった。しかし私は姉の言葉が忘れられない。「まだ、まにあうわ!」

<二回走行>

					一走目	二走目
1位	清水	柏星	帯畜大		0	0
2位	宮竹	騾駿	酪農大		0	-4
2位	武者	騾龍	酪農大		-4	0
4位	服部	ドンホッパー	北大(3)		-7	0
12位	陣川	北皇子	北大(4)		-21.75	-8
14位	中村	ノエル	北大(4)		-29.5	-31

<総合>

					調教減	耐久	余力
1位	清水	柏星	帯畜大		-176	0	0
2位	小宮山	柏栄	帯畜大		-192 $\frac{2}{3}$	0	0
3位	宮竹	騾駿	酪農大		-170	-20	-5
4位	陣川	北皇子	北大(4)		-204 $\frac{1}{3}$	0	0
6位	服部	ドンホッパー	北大(3)		-185 $\frac{1}{3}$	-20	-5
10位	中村	ノエル	北大(4)		-212 $\frac{2}{3}$	-40	-40
	福島	北姫	北大(4)		-233 $\frac{1}{3}$	失権	

<M級C>

1位	後藤	柏星	帯畜大	0
2位	掛川	ノースワンダー	酪農大	-12
3位	玉根	東翔	東北学院	-21.75
4位	陣川	北銀	北大(4)	-28.25

<新人・新馬>

							time
2位	中野	北	玲	北	大 (2)	0	57" 40
4位	金田	北	玲	北	大 (2)	0	1' 02" 21
	真鍋	北	雷	北	大 (4)	失	権

★北海道馬術大会(兼 国体予選)(8月23、24日 於 旭川競馬場)

みんながミヨコをまっていた。汗だくのみヨコと福島姉は旭川のスティーブルコースも根性で完走したのだ。しかし、わずか6秒のタイムオーバーであった。無念。

<成年総合>

				調教耐久余力計
1位	川久保	トカチムサシ	十勝柏友会	-73.62 0 0 -73.62
2位	布施	サミット	北星 R.C.	-77.58 0 0 -77.58
3位	土井	パーソン	日高 K.F	-75.30 0 -5 -80.3
	福島	北	姫 北大 (4)	-89.16 タイムオーバー 失権

<L 級>(婦人)

				減点	time
1位	浦野	マドラス	北星 R.C.	0	46" 67
2位	モニック フォーゲル	ニューヨーク	日高 K.F	0	48" 35
3位	加藤	北	玲 北大 (2)	0	48" 81
18位	福島	北	姫 北大 (4)	-4	
	荒井	北	姫 北大 (2)	失	権

(一般)

1位	勝田	カールビンソン	日高 K.F	0	48" 30
2位	土井	シロキタイサミ	日高 K.F	0	48" 96
3位	山本	北	銀 北大 (2)	0	49" 05
31位	北川	北	銀 北大 (2)	-7	
33位	高野	北	玲 北大 (2)	-8	
39位	陣川	北	銀 北大 (4)	-12.25	

★第9回道内親善馬術大会(9月6、7日 於 岩見沢R.C.)

テスト中であったみんなは必死(?)で勉強していた。むなしい努力であった。

<L 級>

1位	白井	ニューヨーク	日高 K.F	0	
2位	川口	サミット	北星 R.C.	0	
3位	布施	チアガール	"	0	
10位	金田	北	紫雲 北大 (2)	0	
25位	北川	北	銀 北大 (2)	-4	
	大歳	ノエル	北大 (2)	失	権

<ジムカーナA>					time
1位	酒井	アサヒクイーン	旭川 R. C.		36"42
2位	日下部	ケンリュウ	旭川 R. C.		37"32
3位	湯浅	北 銀	北大 (1)		39"45
7位	中西	北 紫 雲	北大 (1)		45"79
10位	石川	ノ エ ル	北大 (1)		53"55

### ★第27回札幌市民体育大会

秋の気配がただよやかな、ひらかれた市民大会。主管北星軍団のなかにおいて、五味、金田兄は健闘しました。

#### <部班馬場馬術>

1位	渋谷	ゼファー	北星 R. C.
2位	緒方	ギヤル	フロンティアR.C.
3位	五味	北 姫	北大 (1)

#### <L 級>

				減点
1位	金田	北 紫 雲	北大 (2)	0
2位	脇	クロス・サハラ	フロンティアR.C.	0
3位	長屋	インター・スペシャル	北星 R. C.	

### ★第3回44国体馬術競技強化指定馬選考審査会(10月4、5日 於 碧雲クラブ)

北玲大活躍ノ 勇気をふりしぼって障碍に向かう彼女の姿が感動的であった。

#### <障 害>

				一 走 目	二 走 目
1位	長屋	マ ド ラ ス	北星 R. C.	0	-6.00
2位	目黒	飛 勝	帯 畜 大	0	-7.66
3位	斎藤	アールグレイ	石 狩 R. C.	-3.5	-4.59
9位	長屋	北 玲	北大 同	-15.5	0
	陣川	北 銀	北大 (4)	失 権	
	高田	北 紫 雲	北大 (4)	失 権	

### ★第36回全日本学生障碍飛越競技会

#### ★第29回全日本学生3-Day Event

##### <二回走行>

					Jump off		
1位	安藤	メジロサンゴ	日 大	0	0	0 (37"20)	
2位	谷川	ユウコク	専 修 大	0	0	-4 (34"62)	
3位	藤原	コルトハンツマン	同 志 社 大	0	0	(38"86)	
14位	清水	柏 星	帯 畜 大	-7.75	-4		
	加藤	ドンホッパー	北大 (2)	失 権			

##### <総 合>

				調 教 減	耐 久	余 力
1位	岩谷	メジロフィアット	日 大	-158	0	-0.25

2位	萩野	プリンスティック	専修大	-161.5	0	-5
3位	小川	白桜	中央大	-194.5	0	-5
5位	宮竹	騾駿	酪農大	-198	-20	-5
7位	清水	柏星	帯畜大	-205.5	-20	0
14位	武者	騾龍	酪農大	-219.5	-40	-5
30位	陣川	北皇子	北大(4)	-263	-157	-15

★第8回山下杯記念馬術大会(11月9日 於 酪農大)

新チーフとのコンビの初試合。コンビをくんで日は浅いが、今シーズンのしめくりでもあるこの試合、カー杯やったのである。

<ジムカーナ>

1位	大儀	フジオオヤマ	酪農大	56" 07
2位	高山	フジオオヤマ	酪農大	1' 00" 00
3位	酒井	騾優	酪農大	1' 00" 31
4位	前田	ノエル	北大(1)	1' 06" 10
7位	石川	北紫雲	北大(1)	1' 10" 13
8位	友久	北姫	北大(1)	1' 40" 14

<L級>

1位	中野	北姫	北大(2)	-3 (1' 06" 47)
2位	高野	北銀	北大(2)	-3 (1' 09" 95)
3位	山口	騾閃光	酪農大	-4
5位	大歳	北姫	北大(2)	-9
6位	山本	ノエル	北大(2)	-16

<M級C>

1位	掛川	騾閃光	酪農大	0
2位	田中	騾龍	酪農大	-14.75
3位	金田	北紫雲	北大(2)	-19.25

## 全日学報告 —「ドンと私と全日学」

加 藤 ゆうこ

86年の全日学は、陣川兄と北皇子号が総合に、服部兄とドン・ホッパー号が二走と総合に出場することになっていた。が、しかし服部兄が9月下旬に交通事故で入院され、その兄の代わりにドンに乗る人間になったのが、なんとこの私であった。10月16日、大きな不安とかすかな期待を持って北大馬場を出発した。

東京へ着いてからは、帯畜大や酪農大の先輩方にも大変お世話になり、改めて三大学の交流の深さに感激した。いきなり目の前に広がった事実に私はどう対処して良いものやらとまどろばかりで、どうも周囲の方にも心配ばかりかけていたようであった。2年目で、しかも女で、その上、乗る馬がドン・ホッパーで……と、そんなことに考えをとられ、あの頃の私は、手足が大きく動かず縮こまっていた。それがわかったのは、東京OB会の方々にて懇親・激励会を開いていただいた席で、OBのある方が「皆、元気がない」とおっしゃった時だった。

試合前々日、前日の運動や、試合直前の準備運動でも、他大学の人馬に先を越され、自分の思うような事が満足に出来なかったことも何回かあった。何もかも初めての経験だという緊張が上手く生かされなかった。騎手のあせりと動揺がわからないドンではなかった。ドンとの信頼関係を確立させるには期間が短かった。でも何よりもなかったのは、私の努力と度胸だったと思う。根性だけで馬は飛んでくれないが、あの時の自分にはもっと度胸や根性が必要だったと思う。

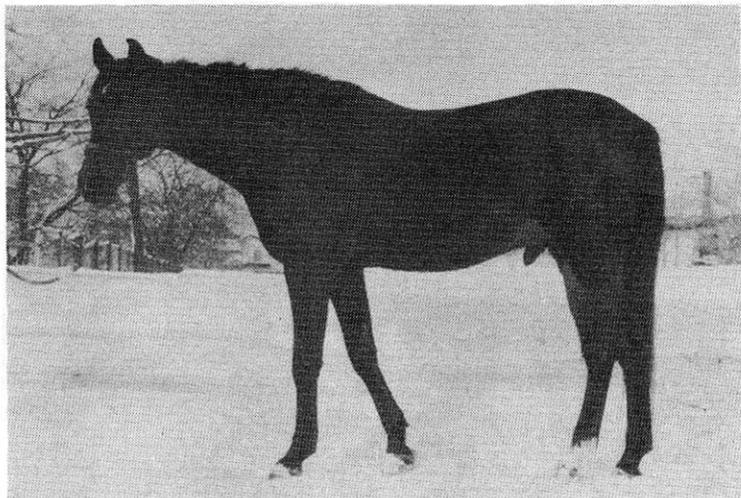
ドンを一走目で失権させてしまった。騎手の不安は、ドンの持ち前の試合に対する積極性でだいぶ減っていた。敗因は、もちろんあらゆる面で騎手が未熟だったことである——精神面・体力面・技術面 etc. しかしこの経験で私は大きな収穫を得た。まず全日学に出るということが、どういうことで、どれだけ多くの内容が含まれるか。「勝つ」という事に必要なものは一体何なのか。そして馬術部という一種の共同体の中の一員が、馬術部の馬で試合に出る事の意味、と言った大きな抽象的な事から、細かい具体的な事まで。例えば、1年目はやはり全員連れて行くべきだったとか、他大学の巧みな下付きを真似るべきだと言ったようなことまで。そして自分自身が今まで、どんなに馬に対して甘く、わかっていたか……これらがだいぶ見えてきた。こんなに重要な経験ができ、私は非常にラッキーだった。私がドンに乗ること、そして東京へ行くことを許して下さった岡田監督、服部兄には大変感謝しております。

そして、北大でのドンの練習を見ていただいた長屋さん、森田さん。東京で、ドンの騎乗に際しての助言をして下さった増田さん、高須さん。また馬事公苑に足を運んでいただいたOBの皆様。情けない2年目が率いる遠征後半を支えて下さった、陣川兄を始めとする4年目の兄・姉。在札だった現役の皆さんにも、東京へ来てくれた人にも……私を助けていただいた全ての方々に、この場を借りてお礼を言わせていただきます。本当にありがとうございます。この経験を北大馬術部に還元できるよう、来年目指してがんばります。

ドン、本当にありがとう。

## 馬 匹 紹 介

### ドン・ホッパー号



騙 中半血 黒鹿毛  
昭和46年6月30日生  
勇払郡早来町産  
父 オーシャチ(サラ)  
母 ハゴロモ(トロ)

「ドン」と呼ぶと、くるっとこっちを振り向き、両耳をピッとこちらに向けて鼻を鳴らしながらのそとこちらに歩いてきます。全くかわいい奴です。おじぎが得意です。チーフの謙虚で礼儀正しいところを見習ったのでしょう。時々鼻で人間を突き飛ばしますが、これも愛情表現の一つです。ちょっと粗暴な感じを受けるかもしれませんが、許してやって下さい。

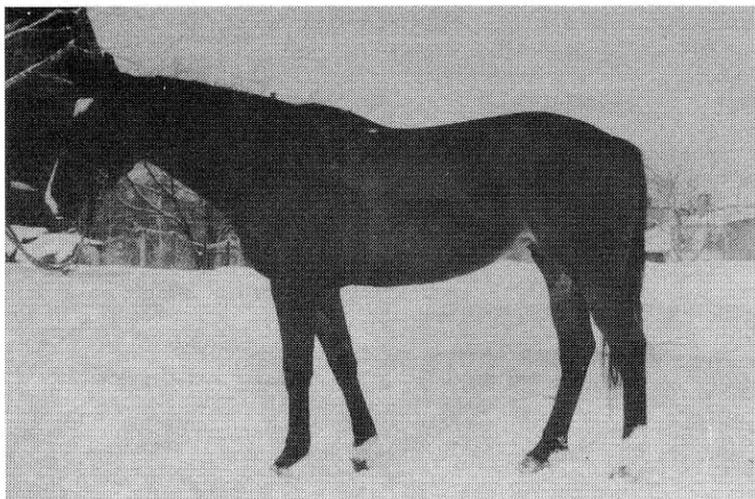
ドンにはちょっと怠慢なところがあります。寝ながら乾草を食ったり、練習後いつまでも砂の上に寝転がったままで起きなかったりします。そんな姿を見て、我が姿がオーバーラップする人もいるかもしれませんが私は違います。

ドンは自由が好きです。パドック脱柵の前科は数知れず、また馬場に放牧しようものなら、自分の満足のゆくまでつかまえてくれません。

ドンは賢い奴です。馬房の中ではアホ面をして他馬と顔を並べていますが、これは飽くまで世をしのぶ仮の姿です。こういう大切な面でチーフに似たというのは全く幸運であったと言えます。

馬体的には順調です。左前肢裂蹄、両前肢の慢性的な腱炎、右肩、右後肢、すべて一応良好です。年齢的理由から無理がきかないので、練習では運動の負担に注意を払い、老体をいたわりながら、今年も未熟な騎手を乗せて、まだまだ頑張ってもらいたいところです。

## 北 姫 号



牝 サラ 鹿毛  
昭和49年3月27日生  
静内郡静内町産  
父 アステック  
母 ヤマニンザザ

北姫こと、舌ペローン、鼻ヒクヒクの、ひょうきんミヨコです。

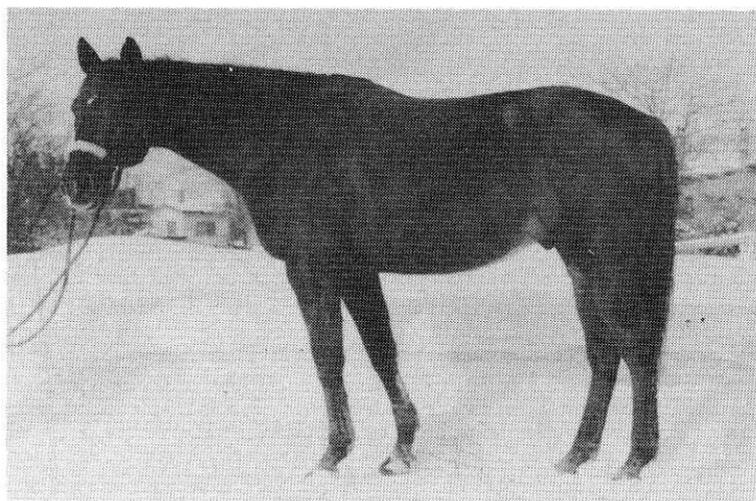
ミヨコは、憶病で、ちょっとしたことで驚き、またすぐに興奮してしまいます。しかし、14才になり、少しは、落ち付いてきた(?)ようです。

曳馬では、いつもチャカチャカと動き回り、草がいくらあっても、同じ場所でゆっくりと食べることはありません。また、早く草を食べようとして、走り出すこともしばしばあります。しかし、人間が叱って止めてやれば、すぐに常歩になります。放牧は、現在は一頭で行っていますが、数頭で放牧していた頃は、一番強く、いつも他馬を追っていました。最近実験的に、新馬を一頭同じ所に放してみたところ、すぐにひばらのあたりを蹴ってしまいました。練習中やその他のときも、他馬が近くを通ると、耳をふせて怒り、かみつこうとして、向って行ったりします。そのくせ、部班などでは、前の馬のお尻にくっ付いて行きます。

しかし、人間に対しては、温和で、ブラシがけなどのとき、馬房の壁などにかみついたり、歯をガチガチやって、いやがりますが、決して人を噛んだりしません。そして、鼻を左右に動かしエサをねだります。

ミヨコは、昔はよく鞍傷になったようですが、今は、全くその気配はありません。しかし、夏の遠征のときに、他馬の鞍を使い鞍傷となったこともあり、最近キ高の周りの肉が少し落ちてしまったので、また、背中を痛くすることもあるので、装鞍には、それなりの注意が必要です。去年の6月ごろに、両前肢の管が腱炎になり、1ヶ月馬休になりました。また、夏には、両肩、特に右の肩から首にかけての筋肉を痛めたこともあり、その方も、注意が必要です。

## 北皇子号



騙 サラ 栗毛  
昭和51年5月12日先  
新冠郡新冠町産  
父 アストラルグリーン  
母 ハーバーガール

「こんなに愛らしく、こんなに素直で、こんなにけなげで、こんなに愉快で、こんなにたくましくて、こんなにすばらしい馬なのだ。君は。」

だから

「君を幸せにしてやれる奴にしかのって欲しくない。」

……………そんな声が聞えてくる。

最初は、たいして可愛いとも思えず、こいつにだけはのりたくない。」

そんな意地を張って、君と接していた頃もあった。

サブチーフになってから——

君とのこの出会いに運命を感じ、一生懸命、可愛いがったつもりだった。

しかし、所詮——つもりでしかなかったような気がして、やけに寂しかった。

チーフになってから——

やるしかない。この馬と。俺の思いが君に通じたのだろうか。甘えてくる。ブラシかけも我慢する。

たまらなく可愛い。本当に可愛い。

——そして——

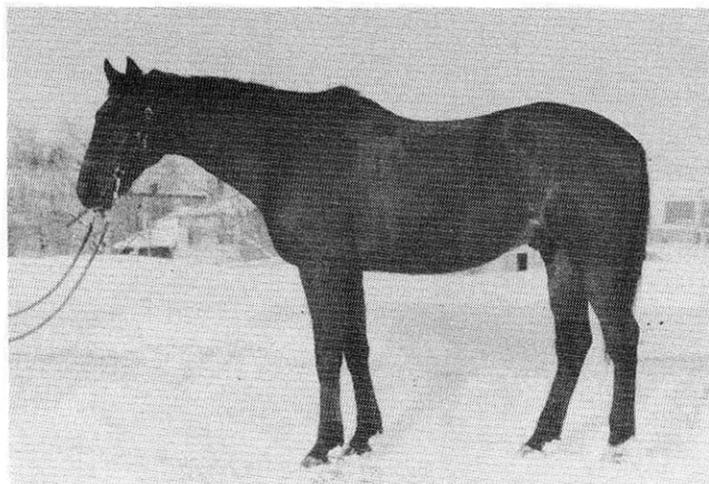
「彼のためなら、どんなことでもしてやろう。」

「彼と心中するつもりで、心底、彼を愛してやろう。」

……………そんな独り言を言うようになった。

もう怖いものなどなくなった。 さあ！頑張ろうぜ！ ギャランよ！

## 北 紫 雲 号



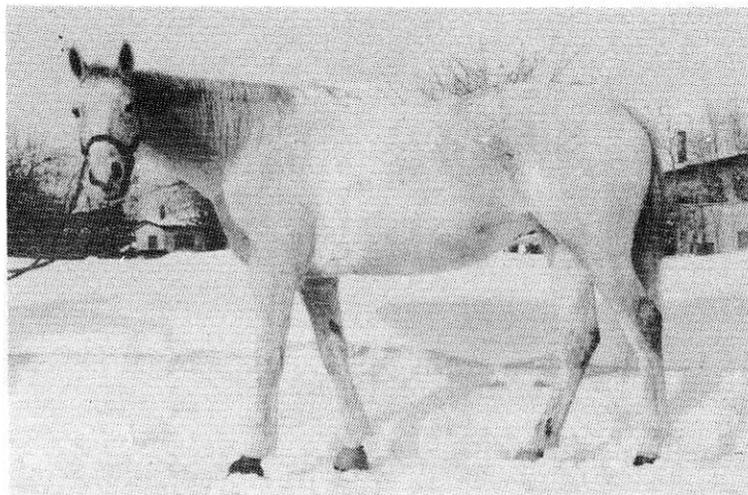
騙 サラ 鹿毛  
昭和53年4月27日生  
静内郡静内産  
父 ホープフリーオン  
母 クイーンマリーナ

大きな体、恐そうなたてがみ、一風変わった顔、そして一番の誤解とあらぬ噂の原因である損な性格…。おそらく北大の馬の中ではかなり印象深い馬ではないでしょうか。

北紫雲——競争馬名アルファマリーナ、みんなはなんとマリ、マーボと呼ぶ。今年で9才になりました。昭和56年来てからもう5年、いつのまにか4番目に古い馬になってしまった。北大の馬場だったらなんのためらいもなくどんな障害でも飛べるのに、いざ試合となるとすぐ帰りたくなってしまふ。イヤなんだ、あの雰囲気…。そんなわけであわや北大から追いだされそうになったこともあったらしい。でも、いろんな人達のおかげで今ここにいる。去年はケガをしちゃってくやし涙をのんだけど、来年こそは…と思っている。なに…このごろおとなしくなった、だって？ああ、ただ、ささいな事に腹を立てるのがバカらしくなっただけさ、飼にだって、べつに執着心があったわけじゃないんだ、以前だって銅付前他の馬がブーブー言ったり、そわそわしたりしてるのに、馬房の奥でじっと待っていたら。プライドを感じとってくれないかなあ。ただ食べる時に目の前でギャーギャー騒ぐのはやめてほしい。繊細だからね、消化不良をおこしそうになるんだ。高く速く、そして美しく飛ぶためだったらきれいな調馬索だって許してしまおう。4月になったら新入部員を乗せられるぐらいにはなっているからね。

——さあ、もう怖いものなしだ……なに牛だって、いやーそれだけは許して、あの白と黒のまだらを見ただけで鳥肌が立ってしまう。あーいうのが4本足で立ってること自体プライドが許さないんだ。まあそれを別にすれば、今シーズンには北大の黒い秘密兵器として、みんなを驚かせてやるから。遊びに来て下さいね。もうかんだりしませんから、へへっ。

## ノエル号



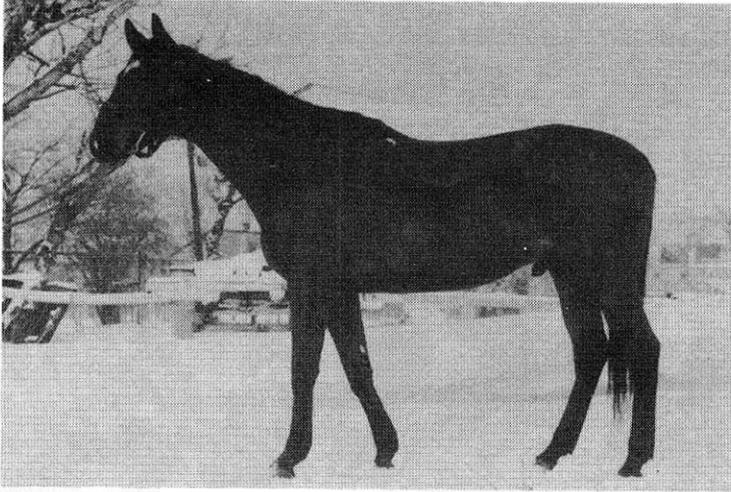
牝 サラ 芦毛  
昭和50年4月22日生  
浦河郡浦河町産  
父 フォルティノ  
母 シンクイン

現在、うちのクラブにいる芦毛の馬、3頭のうちで、一番白い馬、すなわち一番年寄りというわけだが、その馬がノエルです。

昭和44年度卒部の斉藤勝雄兄が調教されていた馬で、昭和57年の3月27日に、我がクラブに、やってきました。その当時、こっこをはらんでいた腹は、こっこが生まれてもそれほどひっこまなかった模様で、結構、腹をゆすらせながら歩く様子を見ると、もう少しやせてほしいなあと思う今日このごろ。皆から出る言葉は「牛」。しかし、彼女は、けっして「牛」ではなく、れっきとした「馬」だなあ、毎日つきあっていると思うことが多い。ちょっとした物音にでも、すぐにびびってしまい、草を噛んでいた首を上げて、辺りを見まわしている。そんなおくびょうなところも多々あります。

うちでは、牝馬を、三角地に放すのですが、ノエルは、性格がおとなしく、他の馬からいじめられるばかりで、いつも、他の馬から、放れようとしているのですが、意地悪な馬がいて、何もしていないのに、向かって行って、おどかしたりするものですから、彼女の気の休まるひまがあるのだろうかと考えてしまいますが、身がやせほそるほど悩んでいる様子もないのですが、とにかく、他の馬に対してある種の恐怖をもっているようにも感じられて、一生懸命、人間を信頼させようと努力してみるものの、彼女の反応が鈍くて、つい短気になってしまい、うまく、信頼関係を作り出せませんが、せめて、三角地の入口で「ノエル」と呼んだら、こっちに駆けてくるくらい関係を作りたいなあ日々努力しています。

## 北銀（しろがね）号



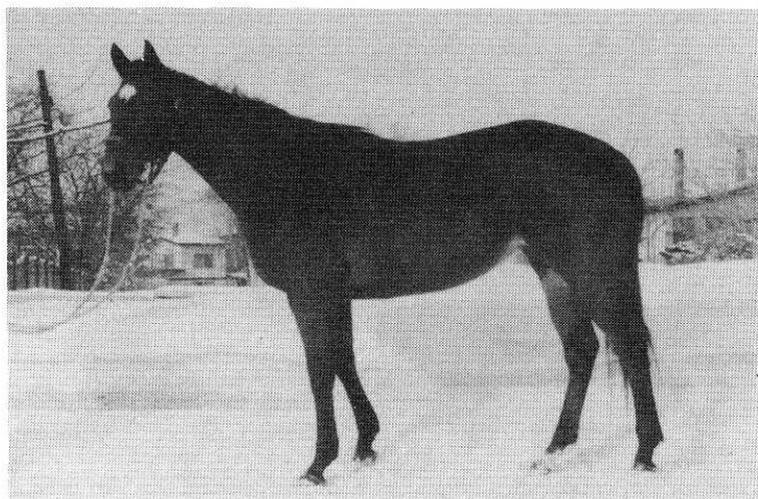
騾 サラ 鹿毛  
昭和55年4月28日生  
上川郡上川町産  
父 ヤマブキオー  
母 ソーゴータカラ

「『北の銀』と書いて“しろがね”なんて、読めっこないわよ！」——試合のたびにアナウンサーの女性は、こう叫ぶのです。「○番……選手、北海道大学、乗馬はくぎん、ご入場ください。」——こんなアナウンスにももう慣れてしまいました。上の写真を見ていただければおわかりの通り、蹄はどの足も真っ黒です。四白の馬も珍しいのですが、全て黒というのも多くはないようで、そこから「白が無いから『白がね』」なんていうバカらしい理由の命名ではありません。「北銀」という名前は入厩当時主将だった平石兄が夜も寝ないで（昼間寝て）真剣に考えた末、提案された由緒ある名なのです。僕のような未熟者には名前の由来など到底わかりませんが、「少年ジャンプ」から採ったなどというようなことはありません。問題は名前ではありません。戦績です。名前を覚えてもらうためには、勝つことです。

銀はいつも鼻のまわりに麩やヘイキューブのカスをいっぱいつけて愛嬌をふりまいています。何事に対しても一生懸命で、障碍に向けられると一生懸命走り、エサが欲しい時には一生懸命まえがきします。また優しいところもあり、他の馬と一緒に放牧されて鬼ゴッコをして遊ぶときには、必ず鬼役を引き受けて、他の馬たちを追っかけています。歯ざしり、まえかき、齧癖と、よくない癖はありますが、非常に素直な性格と人慣っこさのため常に皆から愛されています。

“かわいい馬”としていられる時期もそろそろ過ぎ、今年からは第一線で働かなければならなくなりました。いつまでも愛らしい性格を保ちつつも、たくましさを身につけていかねばなりません。見事な馬格に頼もしさも感じますが、もう少しバネをつけて、今年は大大きく飛躍します。

## 北 玲 号



牝 サラ 鹿毛  
昭和56年4月8日生  
幌泉郡えりも町産  
父 ノーザンアンサー  
母 クレメンティン

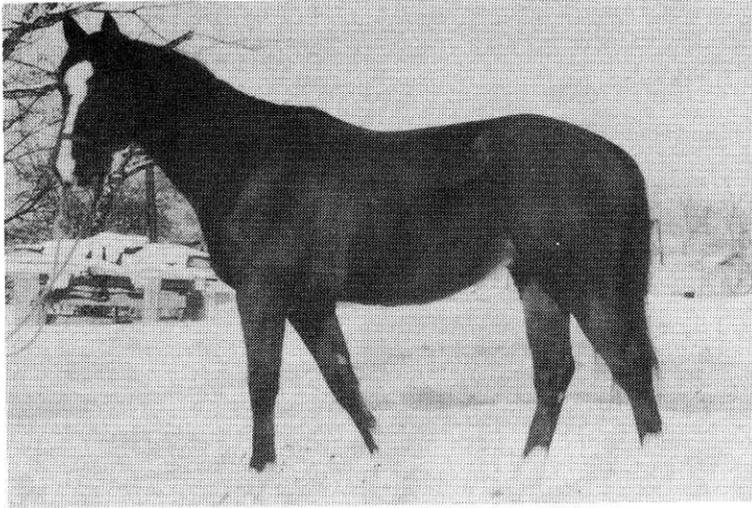
この部報が発行されるころには、北玲も、明け7歳になる。3年程前から競走馬の世界を離れ、乗馬の世界に入ってきた。競走馬当時のクィーンクレメンの名の通り、大変おとなしく、落ち着いた馬であった——北大入厩当初は。“郷に入れば郷に従え”とはよく言ったもので、北玲も北大馬術部になじみ始め、今では「飼付けするぞーノ」と言う部員の叫びに必ず低く「ブブブ…」とうなる北玲の声を聞くようになった。この点から見ても、北大馬術部で末長く活躍できる素質が充分あることがわかる。もちろんこれだけでない。以下に北玲の特徴を記す。

まず馬格的に見て——北玲は小さい。体高165cm位であるが、非常にバランスの良い体格だと思う。骨太で骨格もしっかりしているようだ。それ故、牝馬によく見るきゃしゃな感じがあまり感じられない。これはまた良い筋肉がついているからでもある。そしてその筋肉は調教の結果つくられたものだ。また四肢に関しては、右後肢が特に留意する点である。これは右腰からでん筋に至る部分に慢性的な筋肉痛があることからくる。少々跛行気味の走り方をするが、これは完全に治るものでもないので、絶対に悪くならないよう騎乗者が運動内容に配慮して行くしかない。

次に性格的に見て——北玲は、やはり牝馬だ。試合の準備馬場内にいる他の馬達、冬の除雪車などを非常に嫌う。嫌うというよりも、“怖い”ようだ。除雪車を見て、一目さんに逃げ出し、心臓がドキドキと早打ちしている北玲の顔は、ほぼ半泣きの顔をしている。まだ若いからかもしれないが…いつか北玲が除雪車を見て、知らんぷりでスタスタ歩いて行ってくれる日がくることを祈る。あまり好気心旺盛のタイプでもなく、やはり気が小さい馬と言える。

以上が大ざっぱに見た北玲の特徴である。牝馬である美点を生かしつつ、欠点を徐々に補い、北大馬術部の力強い戦力となってくれるよう、人馬共、努力して行きたい。

## スーパーボーイ号



騙 サラ 鹿毛  
昭和57年4月1日生  
浦河郡浦河町産  
父 アグネスプレス  
母 ナロウビン

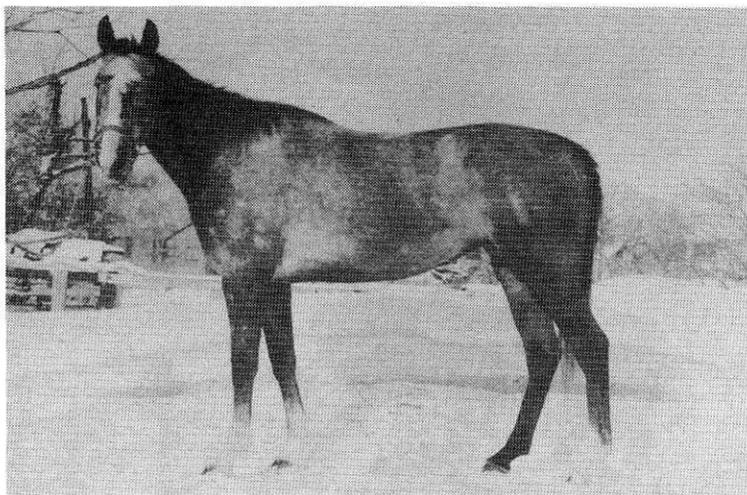
馬場に放牧されている時、どんなに遠くからでも「スーパー」と呼ぶと、こちらに向かって歩いて来ます。鹿毛の4才。去年の秋、水野兄のはからいにより栗東から北大に來ました。初めは森田兄に調教を依頼していましたが会社等の忙しさからそれができなくなり、結局乗る人の決まらないままこの秋まで来てしまいました。そのせいか今も“人に絶対的信頼をおいている”とは云い難い状態です。かみついたり、お尻を向けて蹴ろうとしたり……。しかし、これは馬の性格の原因だけでなく、人の接し方の原因——何か不安がらせる様な事をしなかったか？気にさわる様な事をしなかったか？——も多大にあると思うので、彼に接する人間は十分その点を心してほしいと思います。

さて、この秋から現在まで私が見て来たスーパーについて書きたいと思います。性格はいたって素直。脚への反応も鈍感ではありません。また物おじも全くといっていい程しません。北大構内はほとんど行き尽し、大きな排気孔を見せようと階段を登らせようと一向に平気です。<sup>\*</sup>馬場で障害へ向う時も、乗り手（これは私なのですが）の邪魔にもかかわらず、何度でも応じてくれます。馬体的にも特別な問題はなく、右腰に若干の痛みがあるものの騎乗には差しかえない様です。（南部兄曰く、「使い減りのしない馬だ。」）

現在、OBの南部さんに調教をお願いし、ハミ受け、歩度の伸縮など基礎の基礎から教えて頂いています。四白・大流星で白目のある馬は痼が強いという事ですが、障害馬として大成するともいいますのでスーパーの今後に期待したいと思います。

※ 以前、運動量が少なかったせいもあり、外乗でひっかかって、18条通り近くで転倒し、前歯をおくという事もありましたが、今は運動量も増え、外で意味もなく駆けだすという事は全くなくなりました。

## 北 凜 号



牝 サラ 芦毛  
昭和57年4月8日生  
浦河郡浦河町産  
父 ゼダーン  
母 ヤマニンパペー

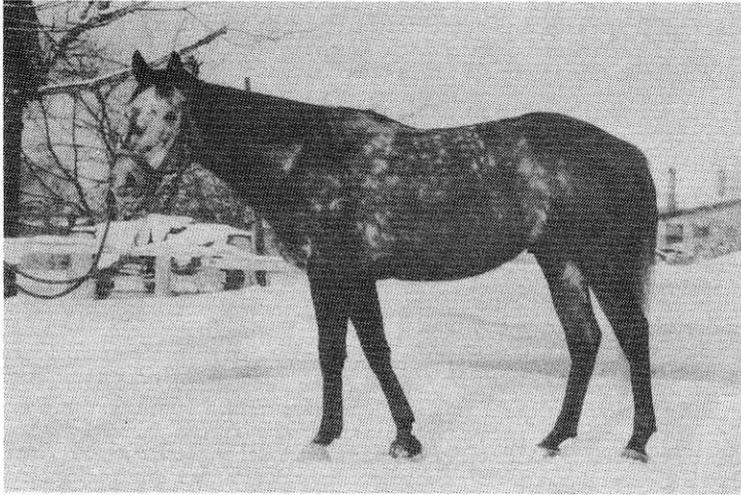
実は凄い高慢ちきである。その反面凄い甘えっ子でもある。そして雌馬のくせにやたら大きく、その食欲も常ではない。初めて会った時は黒い馬だったが、今では白に近いグレーの馬となった。

そのスプリング、去年までは大切に大切に調教されていた。「大切に」を二回も使う程幸せな境遇にありながら本人は挑発的だったりする。調馬索で回す時、その性格はもろに現れる。大抵は、「私、調馬索なんて大嫌い！」とでも言いたげに膨れっ面で一步も動かない。やっと歩かせてもすぐに止まってしまう、勝手に手前を変えるのも彼女の得意技の一つだった。追い鞭を使おうものなら跳ねるし、蹴るし…。しかし、今年から部班に参加するようになった。「跳ねるし、言う事をきかない馬」の印象が強かったスプリングだが、乗ってみると、実は凄い素直な馬だ。初めは戸惑っていた部班にもすぐに慣れ、一年目が乗ってもよく言う事をきいてくれる。左駈速を出し難いのは玉に傷だが…。彼女の素質が良いこともあるが、高慢ちきなお嬢さんにも、今まで大切に調教されてきた成果が徐々に現われてきている。

とは言ってもまだまだ調教段階。これから彼女が学ばなければならないことは数知れずある。長い道のりだが、数年後には、北大馬術部を代表するような馬に成長して欲しい。スプリングには出来ると信じて…。



# 北 瑛 号



騙 サラ 芦毛  
 昭和55年4月18日生  
 北海道勇払郡鶴川町産  
 父 トレンサム  
 母 ホクエイフブキ

品 種：サラブレッド、騙、毛 色：芦毛、昭和55年4月18日生（8才）（昭61年9月北大家畜  
 病院で去勢）

産 地：北海道勇払郡鶴川町、北英牧場、生産者：北海道沙流郡門別町、北英牧場

寄贈者：馬主 小畑安雄氏、調教師 久恒久夫氏（茨城県稲敷郡美浦村大字美駒2500）

入 厩：昭和61年8月13日、水野豊香先輩が函館競馬場の久恒厩舎から寄贈を受け陸送

血 統	父 サラ 持込 トレンサム (164) 昭42生	Tudor Melody	Tudor Minstrel
		輸入(英) ヴァーヴ	Matelda
	母 サラ ホクエイフブキ (14156) 昭48生	輸入(英) ルイスデール キ ヨ タ ニ	Mearco
			Straight Verse
	Right Royal		
	Rossellina		
輸入(英) ラッシー			
輸入(英) フレファード			

昭56（2才）美浦トレセン久恒厩舎入厩

昭57（3才）札幌、函館競馬、昭58（4才）福島

昭59（5才）小倉、新潟、福島、函館

昭60（6才）（新冠早田牧場）福島、福島、函館、福島

昭61（7才）中京、東京（常磐支所）函館

（5年間競馬出走、61年7月30日、右前繫靱帯炎で退厩）

入厩当時、水野先輩、中村康利君が騎乗、後半澤が主に騎乗、9月初め去勢手術後暫く休養、9月末より長屋君と半澤で基礎調教を始め、長屋君が北駿号に乗るために10月以降は半澤が主に乗ることになった。未だ黒っぽい芦毛で、競走馬としては小格で、初めはき甲の下や背の筋肉が非常に薄く、鞍下にパットを入れた。腹部に触られるのを嫌って後肢（両方片側）で蹴る癖があり、未だに矯正出来ない。かなり頻繁な錯癖があり、これも矯正が難しい。概して温和で、伶俐で物覚えが早い、憶病で物を見て驚くことが多い。然し驚<sup>考</sup>までは行かず興奮は長く続かない。手入れや装鞍は容易である。冬の始めに度々疝痛をおこしたが最近は無くなった。最近はき甲の下で背の鞍の後ろの筋肉もつき、全身がふっくらして乗馬らしくなり運動のバランスも良くなって来た。初めの中は右が硬く、右内方姿勢が取り難かったが次第に良くなってきたと思う。未だ顎のゆづりが不十分で良い顎の状態ではない。12月の終り頃から駈歩作業を始め、最近停止からも発進するが手前および速度の規正が不十分である。雪上で肢元が悪く思い切った運動ができないが、停止、後退、各種歩度の発進と移行、不十分ながら前肢及び後肢旋廻を教え、短縮常歩、速歩、肩を内へ、駈歩のシンプルな踏歩変換、反対駈歩を極く僅かやってみている状態。障害飛越は未だ始めないで地上横木の常歩及び速歩通過を偶にやる位で、少し高くすると跨がないで飛び越すので横木の速歩通過を落着いてやるまで続けてから低い<sup>第</sup>一障害を始めてはと考えている。顎を伸ばして歩くことができるようになって来たので、もう少し筋肉の発達を待って、拳のコンタクトをもう少し強め顎を譲り頭頸をラムネの形にし、後肢の踏み込みをよくして楽に運動ができる様にしたいものと考えて、昨年は休んでいた冬の乗馬に精励しているが、新馬の調教はそう簡単には進まない。

乗馬用品・婦人バッグ・ポシェット・サイフ・小物・旅行カバン・ベルト各種

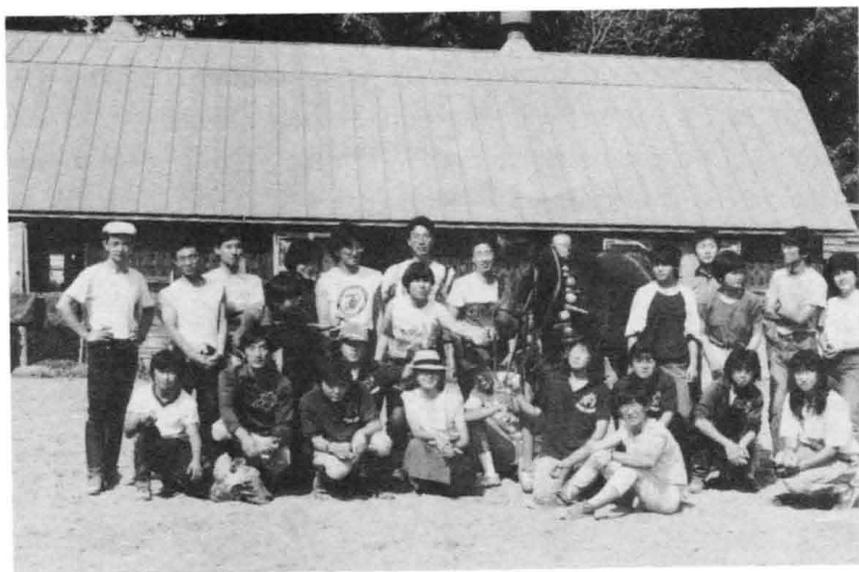
**SOMÈS**  
HORSE RIDING EQUIPMENT MANUFACTURE

**ソメスサドル 株式会社**  
**ソメス 有限会社**

■本社 / 〒073-03 北海道歌志内市神威264  
☎ (012542) 代 2152 FAX (012542) 6716  
■東京営業所 / 〒111 東京都台東区浅草橋5-12-6 明治堂ビル  
☎ (03) 代 866-2131 FAX (03) 863-4652

離 廐 報 告

北 耀 号



北 冴 号



## 北 冴 号 ・ 北 耀 号 離 厩 報 告

半 田 友 子

彼らは能力があったがため、今まで生きのびてきた。が、そのために酷使されてきた。彼らは家畜であるからそれは当然の待遇と言わねばならない。しかし、彼らとつきあっているうちに、その個性を愛するようになってしまい、使い捨てていくことを辛く感じるようになってしまう。

人が人と出会う時、それぞれの過去に染められた個性をもって出会うように、大げさだけれども、人と馬が出会う時もそうだと思う。事務的にどのレースで勝ってきたか、いつどの乗馬クラブへ移ったか等を追うことはできても、初めて人間と接した時、初めて障碍に向けられた時に、彼はどのような人間を信頼したか、あるいはそのような人間がいたのかどうか、あるいは彼を愛した人間はその時いたのかどうかまで追うことは難しい。

北耀号は人間に対して他馬に比べて何倍も警戒したし、北冴号は試合での障碍を恐れた。これらはしゃべらない彼らの履歴書のようなものであったと思う。部員そろって彼らのその履歴書を書き換えようとしたけれど、そこまでは及ばなかった。彼らの欠点も、私達が愛してしまった彼らの個性の一部となってしまう。

北耀号にしても、北冴号にしても、私達はそれが必要なこと、あるいは一番合理的なこと、と納得しても、命の保証の無い外界へ出すことを案じ、その行き先を迷った。年令と馬体、クラブの状態を考えれば、肉にする道もあった。そのような中で、それぞれの馬の行き先が見つかり、彼らがのんびり生活していることは、この上なく幸運に思う。

北冴に関しては、行き先について最も心を痛めていたのは亡くなった福島光絵姉であり、行き先が決まって最もほっとしたのも彼女ではなかったか、と思う。自分で引き取る、と言った彼女だから、長野は遠くて、内心少し寂しく感じたのではないだろうか。

北耀に関しては、洞爺にいるため、殆んど毎週会うことができる。汗をかくこともなく、寒い中にいるために顔の毛までのびて、ムーミンのような顔になって笑わせてくれる。肉にしようと一時は考えた彼を、自然に迎える最期まで見届けられるようになり、無上に幸せである。

今までもそうであったように、これからもたくさんの人と馬がこの馬術部と関わっていく。労苦を共にした仲間と、そして友でもあり、師でもあった馬達を、生きている限り、最期まで感謝と愛情をもって見届けられますよう祈ってやまない。

### 北 耀 号 の 戦 績

S 5 5	8.	1 6 ~ 1 7	道 体	六	段	小 栗	
S 5 6	5.	4	半 沢 杯	複	合	今	7 位

			中 障	小 栗	1 位
	5. 23~24	道 自 馬	中 障 A	小 栗	1 位
			中 障 B	今	7 位
			ハンティング	小 栗	10 位
			ピュイッサンス	小 栗	6 位
			六 段	小 栗	3 位
	5. 31	山 下 杯	小 障	野 中	失 権
	7. 31~8. 4	北 日 学	二 回 走 行	井 上	失 権
	8. 22~23	道 体	成 年 障 碍	小 栗	失 権
			小 障	野 中	
S 5 7	5. 16	酪 農 戦	小 障	野 中	10 位
	6. 5~6	道 自 馬	中 障 B	野 中	12 位
			中 障	小 栗	16 位
	7. 29~8. 4	北 日 学	中 障 B	野 中	7 位
	8. 7~8	道 体	中 障 B	野 中	7 位
			一 般	野 中	
S 5 8.	5. 5	半 沢 杯	中 障	野 中	2 位
			小 障	佐 藤	14 位
	6. 4~5	道 乘 馬 大 会	中 障	野 中	1 位
	6. 25~26	道 自 馬	中 障 B	野 中	オープン
	7. 23~24		中 障 A	野 中	7 位
			小 障	山 田	
		公 認	標 準 中 障	野 中	失 権
	8. 5~8	北 日 学	二 走 ・ 総 合	野 中	失 権
S 5 9.	6. 23~24	道 自 馬	複 合 ・ M 級 C	山 田	失 権
	7. 28~29	公 認	複 合	山 田	10 位
	8. 5~8	北 日 学	二 走 ・ 総 合	山 田	失 権
	8. 25~26	道 体	成 年 障 碍	山 田	失 権
			一 般	陣 川	
	9. 9	山 下 杯	中 障	山 田	6 位
S 6 0.	5. 5	半 沢 杯	複 合	山 田	失 権
			中 障	山 田	1 位
		道 自 馬	M 級 C	山 田	1 位
		北 日 学	二 走	山 田	9 位
		道 体	小 障	半 田	
		全 日 学	二 走	山 田	失 権

## 北 雷 号 離 厩 報 告

真 鍋 直 子

60年の春に北大へやって来て以来1年半、1、2年生を上達させるべくがんばってきた彼ですが、服部新主将への代変わりを機に離厩することになりました。

“鈍くさい” “ほんとに芦毛なの？” “これ農耕馬ですか？” などの中傷も彼にかかってはポンズの耳に念仏。世間には目もくれず、ひたすら食べ、ひたすら走り、そして生意気にもお嬢こと北玲に恋心を捧げた毎日でした。

離厩にあたっては現役が大勢、道産子牧場へ手伝いにいってくれましたし、サブとして荒井妹が最後まで本当によく面倒をみてくれました。現役のみんな、どうもありがとう。

北耀、北驪と共に一冬の間のんびりと牧場で過ごしましたが、3月17日、九州向けの馬運車に乗って北海道を後にしました。二日半にわたる長旅で、スタミナ自慢の彼も、さすがにかなり疲労したようですが、現在は愛媛乗馬クラブで静かに充電中です。

馬休なしのハードな練習に耐えてくれた彼に対し、その能力をひき出してやれず練習馬で終わらせてしまった事を申し分けなく思います。この事実から目をそらさずに、社会人として北雷をはじめとする馬達と関わっていこうと心に決めています。現役はもちろんOBの方々も機会があればぜひ乗りに来て下さい。白くスマートになった北雷が喜んで馬場を駆け回る事でしょう。

〒792 愛媛県新居浜市大生院喜来 愛媛乗馬クラブ

(Te1)0897-41-1101



# 北海道大学水産学部馬術部活動報告

1986年1月～1987年3月

主将 村井英樹

我々北水馬術部に対して北大馬術部のみなさんの御芳情、本当にありがとうございます。上本兄、渡部兄、安藤姉の代から引き継いだ現幹部による活動は、この立派な部報にとりたてて紹介する程のものではありませんが、とりわけ本学で活躍している水産系の学生諸君のための移行ガイダンスとして少しでも役に立てたらと思い、以下筆を進めます。

1986年1月 部報第3号「寒立馬」編集開始

新幹部の初仕事として部報編集をはじめました。

3月 追い出しコンパ

我々とはたったの半年間しか一緒に活動できなかった上本兄、渡部兄、安藤姉の卒部。あまりにも短かったその月日は、忘れ得ぬものでしたが、兄らを乗せた連絡船の出航風景は一升びんのヒンヤリとした手ざわりと、脳機能の低下により、あっさり忘れさられたというか記憶としてインプットされていません。隠密の卒延工作部隊の作戦は骨おり損の全治一ヶ月でした。

4月 障碍練習開始

初めて馬を飛ばす、ということをやってみて部員全員どこかしら打ちつけ、馬をうらめしく思いながらも、ひとつひとつ段階を踏んでいることの確かな実感に満足するのでした。

6月 自馬大見学

東山乗馬クラブの会員さんが出場するため、我々が将来試合に出場した時を考え馬匹として北星乗馬クラブへ。馬を試合場へ輸送することの大変さを身をもって体験することができました。と同時に、騎手の真剣なまなざし、馬の激しい息づかいをまのあたりにして、よし、やるぞ、という気になったの覚えています。とてもよい勉強になりました。

7月 部報第3号「寒立馬」発行

広告料を利用し、オフセット印刷で発行。内容の割には非常に見栄える出来となり、一安心。御協力下さった多くの皆様、ありがとうございました。

8月 道体出場（山本デビュー戦）

東山乗馬クラブの御好意で部員から一名出場できることになり、山本宏がロイヤルで出場。種目はL級一般。前日ロイヤルの全身に世界地図が浮き彫りになったようなじんましんがでて一同狼狽しました

が十勝柏友会の久保田さんの診察のお蔭で、全治、試合にのぞめるようになりました。この場を借りましてお礼申し上げます。

さてロイヤルは東山乗馬クラブの馬になってからもまだ日が浅く、乗馬用としてはまだまだ未熟で物見も激しかったのですが、前進氣勢と馬格を買われ、今回初めて試合に出場と相成った訳です。人間も馬も初体験のこの試合、一見無謀とも思いましたが、岸本、菊地両教官の激しくも暖かい御指導により、ゴールを切るまでのレベルに達することができ、当日を向かえました。

入場と同時にロイヤルの目はいつものおびえたようになり、人間も緊張している様子で第一障碍で一反、二～四までは何とか飛んで行きましたが、いずれも普段の練習に使っていた障碍より大きめで苦勞しているようでした。そして第五障碍、ロイヤルは完全に自分勝手になり2反、失権。結果だけ見てみると平凡でしかないかもしれないけれど、北水馬術部の活動としては意義ある一歩でありました。

#### 10月 北川妹入部

奇跡のストレート移行を果たした妹は北水馬術部員として新たな気分で馬と接しはじめました。

#### 11月 北大北水戦

北水は村井、山本、北川妹をエントリーさせましたが北川は病気で棄権、結局2人で臨むことになりました。結果は惜しくも準優勝。優勝旗、優勝杯をわざわざお届けにあがった次第です。OB戦とも兼ねられていて、パン食い競争、やぶさめ等、とても楽しく過ごさせていただきました。

以上が主な行事に沿った活動の流れです。現在は今シーズンに向けて馬場の基本をガッチリ練習しています。一つ気がかりなことは新3年生、つまり北川妹の代が彼女独りだけということです。何かにつけ他の3年生を勧誘しているのですが函館に来てまで早起きは、という声が多く、部の存続とあわせて今後の大きな課題です。部、クラブとしてのあり方について、人によってその考えは様々だと思います。貴重な時間をさいてやっていることだから、毎日厳しい練習をして、その当然の見返りとして輝やかな戦績を残す。それは至上命令ではあっても全てではないと思います。ダラダラした毎日であればいっそやめてしまった方がましですが、それでも部員みんなが仲よくワイワイやっつけける、細々としていても長くいつまでも楽しく続けていける、それがクラブとしての最低限の姿だと思います。その上でみんなが厳しい練習についていく心構えになっていけば最上です。ただ、クラブの業績をあせるばかりに、部員をしっかりひきとめられず、ひとりまたひとりとぬけていくようでは、それは最低といわざるを得ないと思います。細くてもいつまでも長くつづく、そんな年越しソバのような部を少なくとも私の代では目指していきたいと思っています。今後とも何分稚拙ですがよろしく願いいたします。

# 東京OB会便り

東京OB会 樋口正明

## 「東京OB会の現況等について」

昨年秋、馬術部の激励会を馬事公苑で催した。当日は、東園会長以下有志の面々が集まり、全日本学生馬術大会参加の現役諸君と、交流の時間を持つことができた。その際、OB会の運営のことも話題にあがっていた。このたび、馬術部から連絡があったので、東京OB会の状況を簡単に紹介させていただくことにしたい。OB会発足当時のことは先年の部報誌上「東京OB会結成二十五周年にあたって」の一文でお知らせしたことがある。今回は、会の現状と若いOB及び現役の皆さんに対する要望などについて、申し上げることとする。

東京OB会は、発足当初、会の目的として次の二点を決めた。① 馬術部現役を、経済的、精神的にバックアップする。② 会員相互の親睦を図る。このことは、現在でも変わることなく、東京OB会の活動方針として続いている。現在東京OB会は、毎年現役との交流会、乗馬会、懇親会等総会としての新年会のほか年に数回の集まりを持っている。なかでも特筆すべきことは、馬事公苑での家族を含めての乗馬会、それに続くジングスカン鍋による懇親会であろう。池内さん（故人）、千田さん、千葉さんのお世話で、桜の季節に恒例行事として長年にわたって続いている。

昭和三十四年、約二十名によってスタートしたOB会は会員数が年々増加し、発展してきている。しかし、どのような組織についてもいえることだが、メンバーが増え、年数もたってくると、組織を維持発展させるには、困難なことが伴ってくるのが実態である。そして事務局を担当する幹事の負担が大きくなりその対策が課題となってくる。東京OB会も、同じような悩みがあるわけである。近年では会員数の増加もあって、一つの会合を開くにしてもその準備などに、幹事に多大の負担がかかっている。このような状況では、幹事役を長く続けることは、事実上困難になってくる。会の運営をスムーズに続けるには、実務を担当する幹事を、持ち廻りで行うしかないのではなかろうか。このことは札幌の後援会組織についても、また全国的にみて各地域においても、いえることであろう。そこで若いOB、現役諸君に次のようなことを要望したい。それは「卒業後ある程度の年数（3～5年）は、OB会幹事役を積極的に引き受けてほしい」ということである。仕事上の制約などのこともあると思うが、現役時代馬術部で活動した程度の期間（卒業後すぐの場合もあろうし、何年後かのこともあろう。）は、OB会の運営と後輩を援助する役割を分担し、次に引き継いで欲しいのである。東京OB会の各幹事はこれまでよく対応してくれているが今後、会の運営はさらに難しくなってくると思われるので、多くの方々の協力を得たいと思っている。

早いもので東京OB会が誕生して、二十七年が過ぎてきている。この間、創設以来のメンバーである永松、池内、小林氏等の先輩を失っている。しかし一方、若いOBの加入によって増強されてきている。

今後、皆さんとともに会を発展させ、現役諸君を支援するとともに、相互の交流も一層深めていきたいと考えている。

## 行事報告

○ 観桜会、春の乗馬会（4月21日、於 馬事公苑）

生憎の強風でしたが、まずまずの天候に恵まれ、出席OBは26名、御家族を含めると50余名を数え盛会でした。

○ 秋の乗馬会、現役部員との懇親会（10月25日、於 馬事公苑）

本年は秋の乗馬会と現役部員との懇親会を合わせて行いました。乗馬会には遠征中のドンホッパー号も参加、当日は総合の野外騎乗前日で、部員諸君は試合の下見等で忙しい中でしたが、乗馬会、懇親会とも多数出席して下さい協力感謝します。出席者はOB12名、現役部員9名、それに合わせて上京中の半沢先生も出席して下さいました。

○ 62年総会、新年会（1月31日、於 青山美竹会館）

前年行事報告、収支決算報告の短い総会の後は新年会に移りました。新年会では戦前の大先輩の方々が就職前後の個人史といったものを語って下さいました。古き佳き時代を彷彿とさせるお話でした。和やかな雰囲気うちに閉会となりました。



春の乗馬会（61、4、21）

家族、息子、娘、孫、友人知人、婚約者同伴と一大集合写真

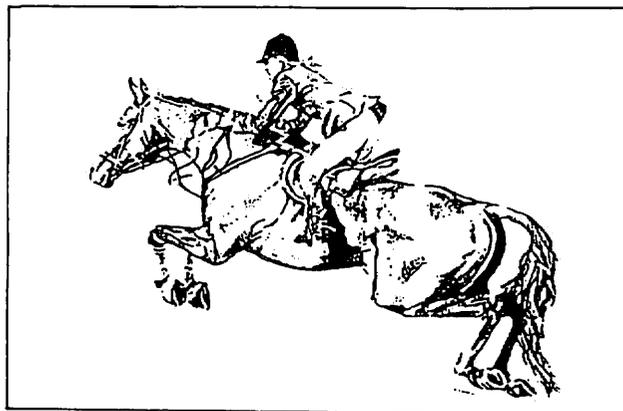


## OB 対抗戦

本年度のOB対抗戦と水産戦は、諸般の事情により、合同で、11月16日に北大馬場で行われました。当日、馬場はコチコチに凍りつく最悪のコンディションでしたが、踏切付近を軟かくして、予定より遅れて開催にこぎつけました。ただ、最初の競技であるジムカーナは駈歩禁止、障害飛越も一部の障害を低くするなどの処置をとらねばならなかったのは、非常に残念でした。そのうっぴんを晴らすかのように、箱番レース、パン喰い競争、やぶさめは燃えました。長老OBの不参加が目立ったものの、怠慢な現役より速かった若手OBも少なくなかった箱番競争、何十年も先輩の方々が真剣な顔でアンパンに取りくむパン喰い競争、まとが小さすぎて、誰も当たらなかったやぶさめなど、楽しみを満喫しました。この後、現役のつくったやや遅い昼食をとり、世話役の平山兄からティッシュペーパーなどの豪華な賞品が贈られ、幕をとじました。当日寒い中お越し下さったOBの方々、同好会の方々、そして、合同にならざるえなかった北水馬術部の皆様、どうもありがとうございました。戦績は以下のとおりです。

総合 1位 北大現役 2位 北水 3位 OB、同好会連合

## 習得しませんか 本格的乗馬技術



素晴らしい馬達と共に…

## 北星乗馬クラブ

● 銀鞍会 ● 少年騎馬隊 会長 松岡靖雄

札幌市南区白川1814-3 TEL (011) 596-2407

## 卒 部 に あ た っ て

佐 多 康 子

組織のための努力と忍耐を自分に求めていたつもりだったのに、いつのまにかずい分甘えてしまっていた。だいたいにおいて、私は混乱の渦中においては適切な判断力がなく、いつでも腹立ちまぎれに感情に走りがちだった。皮肉なことに、自分でそれを素直に認め、前進を望んだのは、馬に乗れず、バイトや他の仕事が出来なくなってからだった。私にとってはこれから先何年も生きてゆくからのだから、収穫だったわけだが、クラブに甘えるだけ甘えて、何もかえせなかったことが残念でならない。

そのかわりといっておこがましいが、在札中は、時間の許す限りクラブに協力するつもりなので、そこのところよろしく。



陣 川 雅 樹

あっという間に終わった4年間。いろんな馬に出会い、数えきれない人達と出会った。

ドン・ホッパー。馬術部に入って初めてサブについた馬。馬に関する基礎は全てドンと高須兄から教えられた。手入れ、蹄洗、曳馬、装鞍……etc。

烈々風。この4年間で最も馬術部にのめり込んだ。全心全霊をルーキーに注ぎ込んだ。上本兄に「この馬やせてるぞ。」と言われ、授業をさぼってルーキーの曳馬に行った。夕当後暗くなってから毎日1袋草刈りをしてやった。一番うれしかったのは、佐藤姉が「最近ちょっと太ってきたね。」とつぶやいた時で、心の中で「やった！」と大声で叫んだ。

北耀。2年目の道体の小障でピーターに乗り、初めて馬のいい状態がわかった。その時の手綱の感触は今でも覚えている。

北銀。2年目の春、ギンに乗りたと思った。しかし、ギンに乗ることになったのは本当に偶然であった。もし自分がやめていなかったら100%乗ることはなかった。ギンに乗りはじめてつくづく自分の下手さを感じた。名越兄や半沢先生に散々言われ自分の姿勢を直した。ギンの腹に穴をあけ、拍車に血がベタリついた時、今までの壁を越えることができた。その時はじめて、自分1人で馬を調教できると思った。乗りはじめて一年たった時である。北日でM級Cで2反で帰ってきたこと、ステイプル（試合ではないが）を帰ってきたこと、自分の最終目標に到達できたことで、ギンに関して悔いはない。



北皇子。馬術というものがどういうことかを教えてくれたのがギャランだった。乗り始めたのが3月、主将という役職とギンとの2頭乗りで、頭の中はパニックだった。どう乗ればいいのかわからなかった。しかし、どうすればいいのかをギャランは教えてくれた。4月から6月ぐらいにかけて、自分が上手くなって行くのがわかった。7月末の公認大会のときには、どんな障害でも完飛できると思った。悔いは残っている。もし、来年があれば、いやもう半年早く乗りはじめていれば、もっと馬体を気遣ってやれたらうに。そして全日学で入賞できたという自信はもっている。

スターライト。ドン・ホッパー。北楽院。北姫。北将。北騾。北皇子。北耀。北紫雲。ノエル。烈々風。輝魂龍。勇勝。オオカリヒメ。北銀。北牙。オーロラホマレ。ゴージャスライフ。北玲。北雷。ス

カイナーホース。スーパーボーイ。ヤマニンチャンス。北凜。チャフルガイ。ニューギャロップ。ダービーパワフル。……セリカ。……………etc。

いろんな馬にいろんなことを教わった。馬術を本当に教えてくれるのは、人でも本でもない、馬なのだと思う。「どんなにいい馬に乗って、どんなに上手い人に教えてもらっても、乗っている人が動かさずとしなければ、馬は決して動かない。」のである。

馬術を教えてくれた人は無数にいる。とてもここには書ききれない。馬のこと、馬術のこと、クラブのこと、個人的な悩み事の相談に乗って下さった岡田監督をはじめ、半沢先生、小池先生、OB、先輩の方、後輩、そして何よりも4年目のみんなには、本当に感謝しています。

4年間、楽しいことより苦しいことの方が多かった。でも最後まで来れて本当によかった。でも、やっぱり、4年目全員で3月の追コンに出たかった。なあ…みつえ。



高 田 敏 江

女子部員へ

長くて短い四年間です。一年生の時はただ楽しいというだけで時が流れてゆきますが、二年生になるとふと立ち止まる事があると思います。～クラブで一体自分は何ができるのであろうか？邪魔になっているのではないだろうか？……………？～今思うとその頃の自分は逃げる事しか考えてなかった様です。先を見るから自分に自信がなくなるのだと思います。現在の自分をよく見てその場で努力できる

事からやり始めればいいのです。でも作業でも曳馬でも……笑う事でもいいと思います。精一杯努力すればいいのです。乗る事に関しても同じです。勇気を出す努力をする事。引込んだままでは、何もできません。勇気を出して少しでも多く乗るチャンスをつかんで、教えてくれと叫ぶ努力です。逃げている自分に厳しくなって下さい。

また、一頭の馬に乗る様になると兎角「女だから～」という言葉を目にすると思いますが、そんな事は自分で色々な面においてわかっていると思います。わかっているなら努力できるはずだから気にせず、胸をはっていられるように。精神的にもっともっと強くなって下さい。そしてクラブの和を大切にして下さい。

頑 張 れ ！



## 中 村 康 則

僕は、今まで、こんなに一生懸命に一つの物事に打ち込んだことはなかった。こんなに自分自身を真剣に見たことはなかった。こんなに威張ったことはなかった。こんなに悲しかったことはなかった。こんなに嬉しかったことはなかった。

高校3年の時、松坂慶子が馬に乗っていたCMをみた。「これだ！」僕はその時、馬術部入りを決意した。入部した初日に遅刻して、見事に怒られた。その時、1年目の男は僕の他には、久光しかいなかった。それでもやめなかったのは、今でも不思議だ。騎乗日誌も全然書かず、当番も遅れ、バイトも余り行かず、今の1年目といい勝負をしていた。講義には必死に出たが、ノートには、よだれと、シャープペンシルの不思議な模様しかなかった。作業は辛いし、バイトは厳しいし、余程やめようと思ったが、上本兄の、「もう、暇になるで。」に数ヶ月騙された。こうなったら、元をとろうと、日高合宿までは頑張った。しかし、その間に僕はクラスでは完全に浮き、行くあてはなくなっていた。また、OB、先輩、同輩と真剣に接し出し、斜めに構えていた自分がとても恥ずかしかった。

1年の冬にルーキーのサブチーフになった。当時、鬼の様に怖かった世良兄が、手入れに來れず、僕1人に任されていて、それで、本当に馬が好きになった。2年目になって、真剣に自分でルーキーを調教したいと思っていた。ルーキーを出す話が出た時は、本当に悔しくて、一晩中寝れなかった。その時、主将の平石兄に当時2年目の僕が抵抗していた。逆の立場になっていたらと、今思うと、平石兄の優しさには、頭が下がる思いである。

2年目の秋にいよいよ馬を任される時になった。その時は北将という馬に乗りたかったけれど、それが離脱させられ、ヤケになって、一緒にやめようと思った。クラブにおいて、主将の言う事は絶対であるということがわかっていなかったのだ。これは、4年目になるまでわからず、町田兄には本当に御迷惑をかけました。この時、放浪の旅に出ていろいろ考えて、結局、馬が好きで戻っていった。そのあと、北姫という馬に乗り、町田雅人兄に教えて頂いた。この時、もっとオープンな気持をもって、客観的に自分と馬を見たら良かったけれども、それに気付いたのは、3年目の9月であった。

自分の代がついにクラブを運営するノ色々計画したけれど、同じ代の中で話がまとまらない。自分がよしと思っても他の人は否と思ひ、話し合いが喧嘩になって、仲の良かった者と喋り難くなる。これは今の2年目（出版される頃は3年目）と同じと思う。結局、胃の悪い西村にクラブを続けられなくした。馬は北姫からノエルに変わって、今度こそと思ひ、オープンに乗ろうと考えたけれど、次第にそれが消えていった。クラブの雰囲気、自分の役割、余裕の無さに抗し切れなくなっていた。せっかく長屋さんがいらっしやったのに、十分に意思が通じ合わなかった。その結果は、北日で権利をとれなかったことで見事に出た。あれだけ下級生に強要したのに、僕は、自分の役目を果たせず、本当に済まなかった。そして、同輩、特に主将の陣川兄には、大変迷惑をかけ、助けてもらった。また、岡田監督、半沢先生、その他のOBの方々にあれだけお世話になっても、期待にお答えすることはできませんでした。だから、せめて、僕自身、精一杯頑張ります。今後の夢に向かって……。

今年を振り返って一番感じてしまうことは、不幸、不慮の事故の多さである。交通事故が四件、合宿で骨折、切傷がそれぞれ一名。監督の御病気等々。そして、現役が急性心不全で1人亡くなった。馬術

部が原因に直接関わっているのも、そうでないものもある。しかし、クラブの仲間が抜けてしまうのは悲しい。特に僕達四年目は、そうである。普段いがみ合うことはあったが、同じ目標を持ち続けていた仲間を亡くしてしまい、一緒に卒部できない。当たり前的事だけれど、仲間は大切である。クラブで一番大切なものだと思う。それなのにクラブ内で、これだけ多くの不幸が起きてしまい、四年目であり、主務というクラブ運営の最重要人物の1人の僕は、一体何をしたであろう。僕一人が何かをして、これだけの不幸を防げたとは思わない。僕自身でさえ、馬を降りた後とはいえ、交通事故に会っていて、大きなことをいう資格は無いかも知れない。でも、何か事故が起きたあと、「これではいけない」というクラブを顧みる雰囲気なかった。僕は、その時はまずいと思って、皆にそのように言ったつもりであった。しかし、振り返ってみれば、僕の促し方は勿論、僕自身も反省し足りなかったと思う。馬術部で活動する以上、事故、怪我の起きる可能性は普通の大学生より高いのは当然だ。だからこそ、クラブの一人一人が十分注意をして、怪我をできるだけしないよう、できるだけ小さくなるようにして欲しい。こんな当り前のことしか書けない自分を情けないと思うが、しかし、これが一番感じたことだからと思い、ペンを執りました。

馬を降りて、2ヶ月余が過ぎた。バイト、バイク、コンパ、講義、ゼミ、研究会、柔道、英会話、遅寝遅起、やりたいことを時間が制約することはなくなった。一通りやってみて、本当にやってみたいと思わないものは、やってもやらなくてもそう変わらない。だからクラブに疲れた現役の人、寒い冬にめげそうな現役の人、作業が厭、バイトがおっくう、いろいろ不満はあるだろう。でも、隣の芝生は青く見えるだけだ。頑張れ！

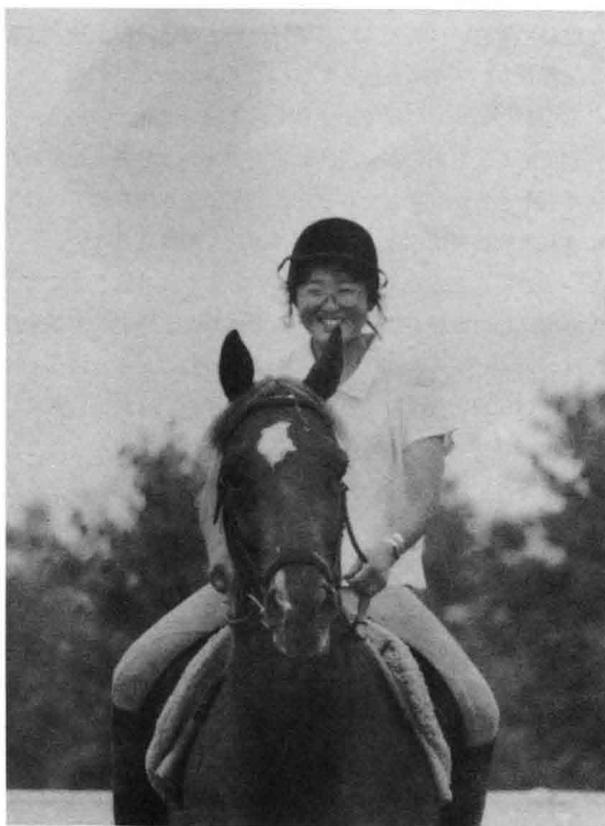


半 田 友 子

今は冬だ。練習に行かなくなって初めての冬だというのに、生まれてこの方、一番余裕の無い日々が続いて振り返ることができない。自分が現役なのか、OBなのか、はたまた人間であるのかさえわからない。(ちゃかさないでよ！本当なんだから…)卒業できそうもないのに、まともに卒業しようとするからだ。だめなもんはだめだよ、なるようになるんだよ、と思っても、やはり絶対に卒業したくて、はからずも不規則な日々を続ける。卒部生らしくなくてごめん。

来年からは、迷惑をかけることもあるかもしれないけれど、きっと役に立てることもあると思うから、大目にみてあまりあきれないでいてください。

まずは、勉強しなかった学生が勉強しなきゃいけない学科にまちがっていても、どっぺらずに卒業できるんだよ、と数々の先輩に見習って実証しますから。



初めてサブについたのはピーターであった。馬房に入るのが恐くて毎回顔がひきつったけれども、時のチーフである野中兄の話聞きながら念入りに手入れをする夕当が楽しくてしかたなかった。兄がいる時といない時のピーターの心理状態の違いは1年目であった私にもよくわかり、その信頼関係に驚くと同時にピーターの事をもっと知りたい、私の存在に気づいてほしいと思った。彼に対してだいたい自信が付きはじめた頃、一人でひき馬にいてパニックになり、獣医から走って帰ってきたことがあった。最後の最後にひきづなを放してしまい、地面に座りこんでしまった。けられたところが痛かったのか、くやしかったのか恐かったのかよくわからないが涙で前が見えなかったな。ピーターとの関係が、完全に一方通行であったという現実を目の前につきつけられて、彼に対する自分の感情まで混乱してしまった。そんな状態の中で2ヶ月のサブの仕事が終わる事になった。明日は次の馬が発表されるという日の夜、コンパでつぶれて女子部室で寝ながら初めて心からピーターがかわいいと思った。酔っぱらって世界がぐるぐる回っていたが、それでもいっしょうけんめいピーターの事を考えていた。

結局ピーターに関しては私の片思いに終わってしまったが、この時野中兄とピーターから吸収したものがその後の私に大きく影響している事に今改めて気づく思いである。

私たちは馬を使って仕事をしているのではない。私たちにとって北大の馬は決して商品でなく、無条件にとことん愛すべき仲間である。もちろん大局的に馬術部というものをながめた場合、クラブあるいはある立場の人間にとって馬や部員がコマとなり、その利用価値が測られるのは当然である。しかし、個々の部員と馬の間には基本的な愛情による信頼関係がなくてはならない。

馬の事ばかりになっているので人と人との関わり方についても私の思うところを少し書こう。

私にとって好きという感情は私の世界を広げてくれるのに対し、嫌い、苦手意識はその逆であるように思う。下級生のみんなへ、いっしょにお祭りさわぎをする時間のある今のうちにできるだけ基本的信頼関係をつくっておいてほしい。練習後生協でうだるひとときや夕当後に、あるいはコンパの芸をひねりだす時に、あるいは部報で頭を寄せ合う時に――。そうすれば、上級生となった時、ここ1番のmeetingで、他人の話を素直に受け止め、自分の本心を素直に聞いてもらえるような話し合いができるはずである。

今一番間近にいる馬や人とあなたとの間の信頼関係をたまにはクラブという枠をはずして見つめ直してみたいと思います。



医 薬 品 卸  
IBM コンピュータ販売



# ホシ伊藤株式会社

代表取締役社長 伊藤 太郎

本社 札幌市中央区南8条西14丁目1397番地  
電話 大代表<011>561-6111  
支店 札幌中央・札幌北・札幌東・薬専センター・帯広・釧路・北見・函館・旭川  
・空知・室蘭・苫小牧・岩見沢・小樽  
・千歳・江別・伊達・函館東・八雲・  
網走・稚内・東京

## 自己紹介・他己紹介

佐 多 康 子（4年目）

距離でいっても近く、馬たちの顔もほとんど毎日みているにもかかわらず、果てしなくクラブ生活から遠ざかってしまった今日この頃。早く人並みに遊びたいと願いつつ、フクロウ佐多は日夜卒論にはげむのであった。

☆

☆

☆

彼女は交通事故で最後のシーズンを飛べなかったが、退院した日からクラブのために働き、馬に乗ろうとする姿は多に私たちの気持ちを奮い立たせてくれました。結好こわがりなくせに信念を持つととても強く変身します。とても強くて意地っばりに見える人がいたら彼女に酒を飲まず事をすすめます。とてもかわいくなります。おしゃべりで、手先が器用で、やさしいお姉さんです。

姉はとっても強い方だと思います。あれだけの事故にあって大怪我をしたにもかかわらず見事に復帰されました。大学院に進学されるそうですがこれからも馬場に遊びにきてください。

他の人も書いているとは思いますが、やはり姉を表す形容詞は“強い”でしょう。強い姉にやさしい“お嬢”。このコンビの活躍をみれなかったのは、残念でした。

陣 川 雅 樹（4年目）

最近、よくこう思う。「ウーン、なんてオレは大学生なんだ。なんてオレは大学生しているんだ！」1講目から授業に出て、学部のやつとメシを食って、キャッチボール・ボーリング・パチンコ・酒を飲んで、イレブンPMを見ておしま。あと残っているのは、スキー・麻雀……………。

この4年間で覚えたこと、酒・タバコ・授業の寝方とさぼり方・事故らないイネムリ運転・北海道の道路・e t c……………そして馬の乗り方。

最近、気が付いたのだが、前の晩に酒を飲んで次の日の朝馬に乗ると、その日一日非常に体の調子がいい。先輩思いの後輩たちよ、ぜひ私に御協力を……！（ちなみに私はアル中ではないのだが…。）

☆

☆

☆

3度の飯よりタバコを愛し、3箱のタバコより酒を愛し、3本のサッポロソフトより生協食堂を愛す。平日の午前中は、生協食堂へ行くと必ず彼に会える。食い終わった朝定食の食器を目の前にして、そこに根を下ろしている。おっとりとしている様に見えるが、感情の激しい面もあり、今一つはっきりわからない。とにかく、主将としての任務、御苦労様でした。

3年と半年、兄と共に頑張った。兄は主将としてクラブをまとめ、引っ張っていった。僕の前には兄の背中があった。僕のギャグも兄に関するのがうけた。本当にお疲れ様でした。兄は、現役の面倒見が僕と違ってとても良い。全く頭が下がってしまう。ほんまです。

昨年まで、バイトで、運転手としてトラクターと格闘してこられた兄は、その座を、T兄にゆずったものの、農業機械学科で、今度はハンドルを、製図道具に持ちかえて、またもや、トラクターと格闘する毎日のようです。

### 高 田 敏 江（4年目）

色々な事を思い返すにつけ、自分のアホさに顔を覆いたくなかったが、「へへえ、今度はアホせんようにしたらええわ!」と思った。立ち直りは早い!だから私は落ち込まないのである。

☆ ☆ ☆

なにもわかりましえーんという顔をして実はすごい人だったのではないのでしょうか……姉は。あの北紫雲をしたがわせ、副将をなにげなくやりこなし、つねにつねに明るく……いやまてよ紙一重というし……。いや、やはり部室でなべ物その他をやっていると必ずひょっこり顔をだすあの鼻のよさはやはりただものでないなにかを感じてしまうのです。

さっぱり、というより、さばさば、さばさばというより…ざばざば、としたさっぱりとした性格。それでいて、その明るさが無精にあったかいです。言葉ではなくて雰囲気があったかいですよ。周囲を思わず笑いに引きずりこんでしまうあったかい底ぬけパワーを感じます。

よく恐い程食べる割には、というかそのせいなのか胃腸はあまり丈夫ではないようだから、あんまりおいしくてうれしいからって食べすぎない方がいーよ。なんて言っても無理か、量より質に切り換えて、大いに食べ歩こーね!

OBになってからつ<sup>・</sup>のが折れたというか、本当に女らしくなったと思います。

### 中 村 康 利（4年目）

人の感情よりは、むしろ合理的な判断や能率的な行動に価値をおくタイプである。ものの見方は客観的、分析的で、感情に流されることは少ないほうである。判断は比較的冷静で、厳しい決断力をもっている。現実的、日常的な事柄よりは、どちらかという抽象的で観念的なものに興味を示し、それらを

体系的にまとめたり、人に筋道だてて説明したりすることを好む。

仕事に取り組む時は、予め綿密な計画を立てて、自分のペースでおしすすめていく方である。

ときに、自分の考えにこだわりすぎて、周囲の状況を見落とすことがあり、柔軟性に欠ける恐れがある。

謙虚に周囲の人の声に耳を傾け、一人よがりにならぬ様留意すると共に、相手の立場を尊重し、理屈抜きで相手の気持ちを理解し、配慮してみる努力が望まれる。 — リクルート社の性格判断テスト結果より —

☆ ☆ ☆

9月に入って何か落ちつかない4年目の中で1人OB然としている男がいた。たまたま練習に来ると、「今日なんか7時だぜ！」と鼻を高くして自慢する奴。しかし、その態度とは裏腹に実は非常にクラブを気にしている事を知っている私は、ひそかにほくそ笑むのであった —。

兄はすごい人です。今年ノエルに騎乗されて、全日学の権利は逃したものの、試合では、絶対ゴールをきっていて、失権をしていません。

また、「ひま経」と呼ばれる経済学部で、勉強されながら、もう一年、学校生活をエンジョイしようとなされ、朝日バイトのチーフをやられるとかいう。

そして、たくみな話術で、主務としての仕事を、うまくやりぬかれて、その舌技には、目を見張るものがあります。少しでも、私達に、割のいいバイトをと、一生懸命にさがしてこられて、本当に一年間ごころさまでした。

人の口を開かせればなしにさせておく、あの服装のセンスは、並大抵の人には、ついていけません。とにかく、すごい人です。これからも、クラブにひんぱんに顔を出してくださいませ。

おもしろい人ですが、知的でもあり、こわい人でもありました。

## 半 田 友 子（4年目）

今まで、こんなに不器用なのに、よく生きてきたなあ、なんて思う。これでこれから生きていけるんだらうか、なんてまた思う。

決断力は無いくせに、やるとなると、とことん突き進もうとする。石橋をたたいて渡るのではなく、目をつぶって、えいっ！と渡ろうとする、そんな感じ。

でも、この末恐しい人間は、「大丈夫よ。」と言ってしまふ。欠点は恥かしいことだし、直そうと思うのだけれど、これは後悔しないから、やっぱり「大丈夫よ。」なのです。

☆ ☆ ☆

何がうれしいのかわからぬ。とにかく、姉といると、だ。微笑が、心の奥からこみあげてくる。

「半田さん？」「……ん？……」半眼で迷想に耽り、何に思い至ってか、やがて、満足気に鼻を鳴らす。(まるでメアリーポピンズだな)「どうしたんですか？」「え？別にいっ」おもむろに鼻歌を歌いながら、事もなげに、物を壊したり、えいっ！と言って直したりする。彼女をずっと見つめていると、我々の目は点と化してしまうのだ。自身は、しかし、そのあまりの大様さ由か、何があっても飄々として動じる風がない。

こどものように笑えるひと。隠れファンは数知れない。

先日、姉の学部の研究室を尋ねた。と、そこには……割れたビーカーや試験管や三角フラスコにかこまれ、硫酸で穴のあいた白衣を着た姉がせっせと実験をやっていた。そして、声をかけるとふり向いて、薬品で紫色に染まった手をふってニッコリ微笑んでくれた。ウーン、姉はここでも馬術部している。

さらに、洞爺牧場に就職を決め、卒業後も馬術部しようとしているのだ！姉にあきれてはいけない、馬術部の鏡だ、尊敬しなければ………と思うのだが、やっぱり………ねえ?!?!

姉は今、洞爺牧場への夢と期待でふくれてしまった体を、連日連夜の卒業実験と卒業のかかったマジック16という取得単位によってシェイプアップしているのだ。ガンバレ・日本ノ………ン??

## 真 鍋 直 子 (4年目)

彼女は22歳、四国は愛媛のいなか娘である。4年前、彼女は留年しない事と卒業したら帰ってくる事を条件に北海道へやってきた。

彼女は入学式の前々日に入部し、気づいた時はハケを握ってサイコロにペンキをぬっていた。身体を動かす事に慣れ、健康的な食欲と早寝早起、気づいた時は体重が〇kgになっていた。いろんな人に出会い、大好きな馬ができて夢中になった教養の日々、気づいた時はクラスから完全に浮いていた。そんな彼女も上級生となり、「ボンズ」と呼ばれる妙な馬とつきあう事になった。彼女は彼を愛媛に連れて帰るという話だ。とんでもない奴だと笑わないでやってほしい。彼女が一番よくわかっているはずだから。彼女は彼が白くなると絶対信じている。

結局彼女は単純な四国は愛媛のいなか娘なのである。

☆

☆

☆

姉はいつも元気いっぱいです。実験で学校にとまりこみ、徹夜の足で馬場に来てもそのつかれを見せません。ニコニコ笑顔の明るい姉、新浜でゆーあったかい所で1年中ボンズと共に走りまわって下さい。

私は彼女の存在と性格を賞賛します。うれしく、楽しい時も、悲しく思い沈む時も、限りなくそれに徹し、日々前進のための努力をおしませません。おもしろい事のみを好み、いやなことは全部切り捨ててしまう私にはない前進気勢と、素直さを感じます。

ねえ、部員諸君、彼女はとても多くの大切なものを残してくれたでしょ。

け一ぱの騎手にでもなれそうな小さい方です。これからもBONSと仲良くやってください。

### 服 部 雅 史（3年目）

善人が馬鹿を見る。

——— 全く住みにくい世の中になったものである。

☆

☆

☆

後輩必聴の兄貴の必殺技が2つあります。それは「合格点もらえなくても学部移行できる方法」と「さらに希望学部までいけてしまう方法」です。 念願の学部移行を果たした後の不運の事故で一番悔しい、そして一番つらい思いをされたのは兄でしょう。しかしその悔しさをバネに来年の全日学ではきつとドンと一緒に活躍されることでしょう。

北日学で見事に、二走、総合共に権利をとり、いざ全日学へ…という矢先にバイク事故で右足骨折。とても残念でした。入院中でもクラブの事をあれこれ気使い指図をしていた兄には頭の下がる思いです。早く元通りに復活して、ドンとコンビを組んで下さい。

### 大 歳 正 明（2年目）

山や湿原を歩きたくて、北海道までやって来て、何故か馬術部に入り、山に行きたいと思いながらも何故か、クラブを続けてきた。そして、やっと、山に行きたいという思いを、あきらめる事が出来るようになってきたころから、すべてに対する情熱も同時に消えて行った。そしてこの一年間で、一人の無気力人間が出来上がったのである。

☆

☆

☆

どこがどうだという訳ではないけれど、彼は外観だけでも、何となく、ひょうきんなのだ。加えて、あの大阪弁。僕は、思わず、ニヤリとするね。

しかし、彼は、やっぱり、やさしい。時々、ブン殴られたような気分になる。

とはいえ、彼は、どうしても、僕より足が長いんだ。ひいきだな。

兄は相手が後輩であろうと、絶対呼びすてにしません。——これは兄の優しさを表しています。

兄は馬に事故がおこっては大変と食事もとらずにT兄、Y兄と一緒に部室に滞在して、常に馬に注意を払っています。——これは兄の馬に対する思いやりを表しています。

そしてこの夏、思いやりの結果、これまたT兄、Y兄と一緒に学内で最も馬と接することの出来る時

間の多い身分を選択しました。兄は部の鏡とも呼ばれています。

### 加 藤 ゆ う こ (2年目)

馬術部に入部して1週間目に「もう、やめよう」と思ったけれど、見えない糸に引かれてここまで来たような気がする。私が接した全ての人や全ての馬がその糸だったと思う。ただ、いつまでも引かれっぱなしではなく、糸は自分で手繰って行かなければならないことに気づくのが、少し遅かった。

☆ ☆ ☆

獣医学部も夢と消えた今……。しかし、実は内容に大差のない、畜産学科であり、全日学のための長期の休みにもかかわらず、学科では、それなりに要領良くこなし、また、ライトのボロ出しやロバ係まで、やっているようなので、今後馬匹として、しっかりとやってくれるでしょう。

加藤姉は、そのたくましさで有名(?)である。夕当時、あの小さな体で、大量のわらをフォークで勢い良く刺し、タッタッタッと軽々しく馬房に運ぶ姿に憧れ、幾度か真似をしてみたが、タッタッタッと軽々しく運ぶどころか、あれ程の量のわらをフォークで刺せないのが現状である。

しかし、実はとっても女性らしかったりもする。加藤姉は、私は壊すことしかできないミシンという複雑な機械を使って、馬の手入れ袋やバンデージを作ったりしている。あれ程上手に作れるのだから、実家のある大阪では、もっといろいろな物を作っていたに違いない。

馬に対する態度は尊敬に値する。どんなに忙しくても、どんなにねむくても、加藤姉は練習を休まず馬匹として、どの馬の健康状態にも気を配り、馬に悪いのではと思われることはどんな小さなこともすかさず見つけ、馬に良かれと思うことは先頭をきってする人である。

今年是全日学に出場された姉、これからも馬同様に部員も、そのパワーで力づけて下さい。

### 金 田 克 己 (2年目)

この間入部したばかりの様な気がするのに、もう2年近く。あと同じだけの時間でなにができるだろう……？ 北紫雲に、部に、そして自分に……。

我々の話す間も、時は意地悪く過ぎ去ってゆく。この日をつかめ。明日はあまり信じないで。

光を見るために目があり、音を聞くために耳があり、時間を感じとるために心というものがある。そして、もしその心が時間を感じとらないようなときには——その時間はないもおなじだ。

☆

☆

☆

副将という重要？な役職につき頑張っている兄。練習中「テーマ何やってんだ」とか「バカヤロー、アホー」という言葉が幾度となく繰り返される。そんな男らしい皮ジャンを着た兄です。（ちなみにその皮ジャンは僕の物です。）

考えているようで考えていない。と思っていると、考えていないふりをして考えている時がある。全く謎めいた人物である。食当の手際良さと、時々ヒステリックになる性格は、兄の中に潜在する女性の部分を表わしている。横浜舟の中に時折聞こえてくる北海道舟は、彼が馬術部にしっかりなじんだことを意味するだろう。さりげなく渋く決めて、皆を圧倒することもある、が、「不思議アニマル」とかいふ変なぬいぐるみを喜んで買ってきて、水産へ行く北川姉に贈ったあたりには、兄の素朴で純心な一面がうかがえる。現在、副将という重大な役職にある兄。兄の性格を生かして、「大胆かつ繊細」な副将でいてほしい。期待してますよ、金ちゃん！

## 高 野 薫（2年目）

去年の部報が出てから、まだ5カ月。自己紹介といっても何も変わってはいないな。しかし去年の部報の自己紹介を書いた時から数えると一年も経つんだな。———何やらモサモサ書いてしまいましたが、去年の部報を前代未聞・前人未踏・空前絶後などという範囲すら大きく越えて遅らせた張本人の高野です。一時はあやうく今年の部報に抜かされてしまうのではないかと感じてしまいました。怠慢・怠解・怠惰・怠業・怠廃・怠放——一体誰のことでしょう。部報を遅らせた部員として覚えられた名前を、今年はヒーローの名として覚えてもらえるよう頑張ります。

☆

☆

☆

奴に会いたかったらまず部室に行く。家に行ったら、部屋はカラッポ、たぶん気配もないだろう。話をさせたいなら、よほど考えてきりだす。でないと聞けるのはいつものつかれる冗談だけ。

馬と一緒にいる兄の顔はとてもステキです。あの細い眼がさらに細くなり、顔全体が今にもとけてしまいそうです。

バイトではさすがに牧場生まれの牧場育ちということで、トラクターを自転車のごとく運転する兄はとうとうあの成績発表の日、周りの人間をあっといわせる逆転劇を演じて留年を決め、来年はバイト用員としても頑張ってくれるということです。

しかしその兄も、銀次と二人で馬事公苑に乗り込んで講習を受けるなど、最近はその優しさの中に馬術に対する情熱の強さをうかがわせています。きっと今年と来年は、銀次君とともに、馬事公苑で思う存分走って跳んでくれることと思います。

中 野 兼 一（2年目）

『今日という日を』、『今この瞬間を』 カ一杯、勢一杯、力の限り生きてやる。

「昨日のこと」も「明日のこと」も思いわずらうまい。

僕は僕の夢を、僕の目標を、僕の生きている証しを、この北皇子に、このクラブにかけてやる。  
だからこそ……はったりと言われようが、戯言と言われようが、

—————私は全日学で勝つ————— 酔ってなんかいないぞ、俺は。

☆ ☆ ☆

ドラゴンズグッズをそろえ、コンパには必ず応援歌を歌う中日ファンの鏡。理系ながら、ネコと同じ位多忙な学部に移行した、人の足りない馬術部の鏡。酒を飲んではいしゃいでいる時の陽気さ、練習中の厳しさ、授○中の静けさと、同一人物とは思えないヤヌスの鏡。そして、ギャランに乗って、主務をこなし、部のことを考えている姿は、我々の鏡です。

これだけはめれば、何かおごってくれるだろうなあ……。

彼にまつわる悲劇を1つ紹介しましょう。

その日の午後、彼は乾草バイトの運転手としてあてられていた。ところが彼は出発の数時間前に車のキーを失くしてしまった。乾草バイトをさぼるわけにはいかない。使える車はその一台しかない。あわてた彼はすぐキーセンターに電話し、8千円かけてキーを作った。

ホッと一安心した時、雨が降りだし、乾草バイトはなくなった。

その日の夕方、失くしたキーが見つかった。——

そんな彼も今年は愛馬ギャランに乗り、活躍してくれるだろう。

古 川 理 絵（2年目）

「御趣味は何ですか？」と聞かれたら「乗馬とピアノを少々。」と答えようと思っている今日このごろ。その実、体育会とクラブの板ばさみでピーピー言っている今日このごろ。

昔は人にできる事なら自分にもできると信じていたのに、今は周りの人の偉大さにただただ感服している毎日です。

☆ ☆ ☆

彼女は女の子である。声だけはとてもかわいい。しかし体はでかい。俺よりずっとでかい。

彼女は名古屋出身である。名古屋はとてもとてもいい所だ。俺はいつか名古屋に住みたい。

彼女は体育会本部員である。故に神経のプツリ切れた友達を多数もつ。俺もその中の1人だ。

彼女は林産学科所属である。林産には絶対、移行したくない言いながら、『やっぱりねえ』と言って、

にこやかに移行した。俺は彼女の宿命をこの姿にみた。

彼女は寮生である。故に外国人留学生を友達にもつ。俺にも1人紹介してほしい。

彼女は幸せでいっぱいである。なぜなら彼女はすばらしい恋をしている。みんなにのろけながら、幸せそうに。俺はもう何も言えない。

彼女は狼談が好きである。いつもにこにこしながら、さりげなく、俺を相手に会話を楽しむ。

彼女の名前は古川理絵である。しかし近々その名前も。俺はくやしくなんかない。涙などみせない。だって僕は男の子、彼女はこれでも女の子。

姉はとても大変な人です。馬術部2年目としての大きな責務に、そのうえ体育会のうぐいす嬢(?)。まるでえん麦を2体かついで2階飼料庫にのぼることくらい大変なのではないだろうか?と、僕はそのえん麦1つでさえしっかり持つことが出来ずに、姉のふんばりを見えています。

きっと姉は、63年の夏が終わる頃、自らの世界を押しひろげた人として後輩の目には映るでしょう。“マラソンにおける勝利者は、すべての完走者である。” 姉の完走を心より応援する僕です。

## 山 本 英 則 (2年目)

ぼくの自己紹介をすると、眠くなるので、自己紹介のペンを置きます。というわけにも行かず、今年こそは、しっかりした自己紹介を書こうと思ったのである。私、この夏、水野豊香兄の立会いのもと、出家いたしまして、ライオン丸を返上しました。それ以後、頭を洗わなくても、人に気付かれることもない日々を過ごしています。部では、3番目にひまな人間となって、教養生活ももう一年。英語の単位をどうすればいいのでしょうか。今から心配で、夜もおちおち眠れません。

☆ ☆ ☆

一度眠たら、ゆすられても、たたかれても、蹴られても、布団をはがされても絶対起きない兄。

地震が来ても、火事になっても、雷が落ちても、三原山が噴火しても、多分ねていると思われる兄も、馬術部での遅刻は何故か少ないのです。

よく部室で寝ていらっしゃる大人(たいじん)です。起こしても起きない時はホントにおきていただきません。以前部室でねてらっしゃる時に電話がかかってきたのですが全くそれにも起きられません。

全く根性のすわっておられるお方です。

髪の毛もライオンみたいだったのでMさん、四年目某等によりぱっきりと切られてしまいました。そのためいつも帽子を着用されています。

作業ではみごとにみんなをまとめてくださる作業隊長でもあられます。

石川 信 行（1年目）

過去の部報を読みながら“こんな自己紹介もいいな”とか“あんな自己紹介を書いてみよう”とか、はたまた、“自己紹介が書けるころまで僕は部に残ってられるだろうか？”と色々考えているうちに結局何も書けなくなってしまったという事実は僕の性格を如実に表していると思います。

☆ ☆ ☆

何か一つのこと考え出すととことん悩み、部室で『アー』とか『ウー』とか『ウーン』とかわけのわからん奇妙のため息を出しながら、深刻すぎる顔で何かを考えている、馬術部の『考える人』こと石川であります。

『今夜こそ、ドイツ語の勉強をしなければ』という文句が毎日の口ぐせで、完全に馬術部に染っています。彼はとてもまじめな人間で部報を愛読書とし、『部報の鬼』と言われています。

親不孝者の自宅生で、愛車ミニカを制限速度で乗りまわし、堅実な運転でその名を知られておきながら彼の弱点である、「RCサクセッション」の『雨上がりの夜空に』を聞くと体が踊る、たったこれだけのために、危く一生を棒にふりそうになるという荒ら技までやってのける。

とてもきたえがえのある一年目ではあるが、酒は本当にまずそうに飲んでくれる。

『悩める小羊、石川よ。飲みなさい。私はあなたをサッポロソフトの愛で優しく包んであげましょう。

そう私を信じて、飲みなさい。さあ早く早く。それ——気だ！——気だ！』

入部当時、「いつやめようか」ってそればかり言ってたくせに、最近人に向かって、「やめちまえ」なんて言い放てるようになって、えらくなったのねえー、石川先生。

小 嶋 義 継（1年目）

私の行く所、笑いと涙あり。

☆ ☆ ☆

12月に入ってきたちょっとへんなやつです。時館のカレー3杯に挑戦するため日夜努力されましたが、おしくも敗けてしまいました。

最初はおとなしーやつだと思っていましたが大ちがいでした。どこか哲学的判断のおかしいやつです。

## 五 味 裕 子（1年目）

北大に入学する以前から馬術部に入ろうとは決めていた。大学が始まってから2日目に部室へ赴いた。はっきり言ってショックだった。あまりにも汚かったから。

今考えてみれば、その時入部していなかったら、もっとまともな大学生でいられたことだろう。気がついてみると、私は馬術部という泥沼の中に両足のみならず、体全体が沈んだ状態だった。土、日のみならずウィークデーまでアルバイトや作業、そして早朝の練習。家に帰るともうクタクタで勉強どころではなかった。入学当時は、まだまともな格好で通学していたものの、今では作業着でキャンパスを歩けるようにまでになった。土、日には、練習後、朝食を買いに、その汚い格好で、コンヴィニエンスストアにも赴いてしまう自分がかわいそうと思いつつも、馬術部を辞めずにいるということは実に不思議である。

入部当時から、病気がちで迷惑ばかりかけていますが、そんな私を見捨てずに支えてきて下さった先輩や同僚達に囲まれて、大好きな馬に囲まれて、やっぱり馬術部に入って良かったと思う。これからもまだまだ迷惑をかけると思うが、どうか見捨てないでください。私も、もっともっと頑張ろう。

☆ ☆ ☆

彼女の出現で、北大馬術部は変わった。噂では、今はやりのお嬢様らしい。外見は、お嬢様でしょう。先輩達は、何日もつかとかけまでしていたという噂です。しかし、かけは成立せず、今もって頑張っています。ただ、ほんの少し体がしょうぶでないのも、もっと体力をつけて、正しい食生活をしてください。一年生の女子は二人しかなくて、かなしい。と私は思います。だから、これからも、良くしたるけど、エスキモーのような格好で、頑張してほしいなあ。

起。「田園調布だって?」「留学してたんだって」「○×△□!!」様々な噂がとびかい、まだ見ぬ者は、あらゆる想像を楽しめた。眠気を誘うのどかな春の日の午後、彼女の出現は事件!でありました。

承。……

転。!!!!

結。いつのまにか馬術部員。一皮むけたバナナのように、がんばって下さい。

起。春です。

## 友 久 学（1年目）

僕は、19歳。一体何を考えているのだろうか、何を求め、何をしたいこうと考えているのだろうか、自分がわからない。暗中模索をしながら生きている暗くてどこか背中が寂しいかわいい男の子です。

☆ ☆ ☆

彼は、彼の足の長さには似合わない、オフロードのバイクに乗り、赤信号では、左足のつま先を、わ

ずかに地面にふれさせ、右足は、空中高く浮いている……。そんな、神業をやったのける運動神経の発達した、サッカー少年です。その運動神経で、馬術もがんばってください。

「あっちに行ってよ！」

「触らないで！」

コンパも半ばを過ぎると、アブノーマル友久こと、友久学氏の近辺で、よく耳にする言葉である。彼がなぜアブノーマルと呼ばれるようになったいきさつはよく知らないが、3日間も付合えば自ずとわかってくる。

学氏を中心に、半径4メートル以内に入ると、なにやら不可解なメロディーがきこえてくる。本人は今流行の歌を歌っているつもりらしいが…。蹄洗をしている時も、部室の掃除をしている時も、擦れ違う時も、いつでも歌っているのが学氏の特徴の1つと言えよう。しかし、学氏、どうせ歌うのだったら、もっと上手に歌って下さい。

一見ポーッとしている学氏であるが、馬に対しては真面目である。人手不足で忙しい時は、自ら進んで馬の手入れをし、ボロを拾い、手入れ道具をかたづけ、練習も、1つ1つ着実に身に付けていこうと努力している。今回は副務という役職も引き受け、部のため、馬のために、一生懸命働いている。何を頼んでも、何を言ってもイヤな顔をせずに引き受けてくれる学氏は、とても頼れる人だ。

たまに(?)ドジなことをして皆を笑せてくれる学氏、これからも馬のため、部のために頑張ってください。  
P.S 麦稈をハイバスケッットにつっこまないで下さい。

## 仲 村 秀 喜 (1年目)

自由を追い求めて北海道に来た。

いろんなことをやりたいと思って大学に入った……………はずなのに

何なんだこの現実は……………

こんな部やめてしまえノ

人間は自由自由と騒ぐけれど

いざ自由になると何もできず、拘束されないとだめな動物なのさ……………少なくとも私は。

自分を甘やかすものだから、自分がかわいいものだから、自分に勝てない愚か者だから……………

☆

☆

☆

文系という新勢力の一角をになう彼はやはりどこかちがう。最初のころはなにをやるにしてもおどおどとまどっているような感じだったが——新歓コンパのときのあの風格が目にとりついていてその対比がおかしくてなんどふきだすのをこらえたことか——このごろなんとなく、キラリと光ることを言

ったりやったりすることが多くなったよ。

僕は仲村が大嫌いでした。堂々とあのゴールデンウィークを楽しみ、半沢杯作業が一段落ちついた頃に入部したくせに、その後の作業は力一杯なまけるあの様子。でもあの夏の日、彼を変えました。

今、改めて考え直してみれば、我々2人はたった2人の同門生。同じ師（人間調教師、又の名をチーフ）をおおぎ、週に二度のおつとめをこなす。なにがあっても、毎朝馬に乗る。彼の前では、なまはんかな姿は見せられない。お互いの気合の入っていない姿をみつけた時の合言葉は決まっています。「やめっちまえ、こんな仕事もこなせない奴なんて。そしたら俺の鞍数が増えるから都合いいや。」  
ああ、こうして張り合っているのは、「ぶち大儀イゼ!!」

## 森 康 充（1年目）

自己紹介を書け！と一つの指令を与えられた以上、我々は自己紹介なるものの定義を確認し、任務遂行をはたさねばならぬと思う。そこで我々は紹介を無定義概念とし、自己という文字を確認しようと思う。前提として次の演算、functionを定義する。 $x_1 \oplus x_2 = x_1 x_2$  ( $x_1 x_2 \in$  名詞)。この演算は、名詞から新たな名詞（俗にいう熟語）を形成する。 $f(x) = \text{動詞 } x = x \text{ 動詞}$  ( $f$ : 名詞  $x$  を動詞の目的語にする。) さて上記「自己紹介」は動詞「紹介」名詞「自己」であるからこれらが利用できて、

$$\text{自己紹介} = f(\text{自己}) = f(\text{自} \oplus \text{己})$$

つまり自己紹介は紹介という動詞（ここでいう動詞は一般にいつても動詞とちょっとちゃうけどかんべんして！本当は  $f$  を定義した時言うべきだった。けど人の発意とはしばしば論理的順序とは一致しないものである。）と自己という名詞から構成される。これを日本語訳すると「自己を紹介する。」になる。ちなみにこの  $f$  は線型写像の有する性質  $f(x_1 + x_2) = f(x_1) + f(x_2)$  をもってない（ $f$  と  $f$  同士の  $+$  など我々は定義していない。）ので線型写像とは言えないし、可換であるとも言えない。

そこで自己=自分だから「自分を紹介する。」となって以後そうします。

僕、今馬術部に入ってます。北海道ではなんかおもしろいことやったれ！と思って入りました。僕という人間は怠惰であると思います。やるべき事をやろうとしない。特にいやな事はなかなかせず、やりなにかんと思いつながらその事が気にかかり、結局すべてがてきとうになってしまう。そんな事をくりかえして人生を過ごしてきた。その人生はひとつの歴史である。俺の歴史はそんな意味で全く恥ずかしい歴史だ。過去には我々のようにタージオンでできてる者には行けない。つまり過去の歴史はかえられない。

だがおれには人生がまだ残ってる。まだ歴史を創れる可能性がある。しかもすばらしい歴史をだ。馬術部にいるのもその一環だ。おれはやる！天に誓って！

☆

☆

☆

「コイツはすぐやめるだろう。」 そう思い続けてもう半年たったが、なかなかやめてくれない。史上最強のチームワークをほこる一年目のきづなをより強くしてくれるのが彼である。「こいつがい

なかったら、すぐ決まるのに。」と思う日があるかと思えば、「こいつの存在価値はなんて大きいのだ。」と感心する日もある。まったく不思議な男である。そして今、僕は彼が上級生となって下級生の上に立つ日が来るのを想像すると、彼には絶対やめてほしくないと思う。

彼はいつも、あの天真爛漫なほほえみというよりは少し間の抜けた笑いを浮かべている。しかしその顔からは想像もできぬが、彼は一年目の中で最も授業をまじめに受け、成績もトップであるということだ。愛用のスポーツバッグを肩にかけ、教室と教室の間を小走りに移動する彼はいつも、あの笑みを浮かべている。

酒がまわると「同期の桜」や「戦友」をうたいたがる彼は春の馬術講習会で軍馬にまたがる陸軍将校の夢でも見たのだろうか、コンパで口説かれ、次の朝、部室で寝ゲロを吐き新入部員名簿には、もりもりおの名があった。落馬で右腕を折ったにもかかわらず、毎朝訓練に余念のない彼が、愛馬にまたがり鉄兜をかぶり、軍刀を振りかざし敵陣めがけて突撃する姿を見るのも、もう間近かであろう。

#### 湯 浅 真 美（1年目）

「お前はぶさいくけど、笑ってる時だけは人並だから」との神の啓示をうけました。いつでも笑っているアホさと強さを持ち続けたい、と思っています。

☆ ☆ ☆

ハハハッとあいた口にめがねの奥の\*←こういうおめめ。すらりと伸びた長い脚がO脚でも、彼女は決してめげたりしません。クラブでは記録と衛生と2つの役職で大変だけど、持ち前の根性と明るさで切りぬけて下さい。ガンバレ、アラレ!!

おかしな子。アラレ。獣医めざして北大に入った大分の田舎娘。でもとんでもない事には獣医はむづかしいね。まーがんばれや。

## 水 産 学 部

村 井 英 樹（水産学部漁業学科、漁場学講座4年）

船を岸壁につないでおく時、船乗りは自分の船がキチンと係留できる岸壁かどうか見極めてからロープを投げる。それが軟弱だったり、波をまともにくける所だったり、位置がフラフラ動いてしまう岸壁には決してロープを投げない。そして一度ロープをなげた岸壁とは運命を共にするのである。

☆ ☆ ☆

北水馬術部主将、応援団、そして、生協の仕事までこなす。実行力、そしてあの顔は、まさに上本二世であります。

馬乗りには変人が多いと聞くが彼もその例外ではない。——— 口笛は吹けないが歌には自信のある彼は「月月火水木金金♪♪♪……」とあたりかまわず歌い、生のにんじんをまるごとかじり、急行列車の中では踊りまくり、挙句のはてに目を開けたまま寝るという特技を披露するそんな彼。新入生を迎えるにあたってパンチパーマをかけて衰味をきかそうとする彼。そんな彼も最近!! その変人ぶりにおげれつがプラスされますます威力はアップされている。前と比べて顔つきもギラギラしてきて、もう彼を止めることができる者は誰一人いない。やはり彼は馬に乗るために生まれてきた男なのである。そんなパワフルな彼がいる限り北水馬術部は永遠に不滅であろう。永遠とはあと5年の学生生活のことなのだ。ところで愛車「アクティ—」の中にいつでも双眼鏡が入っているが、何をのぞいているのだろうか?!

北 川 知 子（2年目）

誰かが教えてくれた。

「無限は存在する 無限は彼処にある

もしも無限にその自我がないとすればこの我なる自我が範囲となるであろう

言い換えれば無限は存在しなくなるだろう

しかるに無限は存在する ゆえにそれは一つの自我をもつ この無限の自我、それが神である

<レ・ミゼラブル 第1部第1編第10節より>

今まで生きてきて、いろいろな壁にぶちあたった。逃げたこともある。逃げられずに立ち向かっていったこともある。どれだけつらいと思ったか。どれだけ苦しいと思ったか。でも今考えると、それは本当にたいしたことない薄っぺらな壁。何であんなことで悩んでたのかと思う。

今立ちはだかる大きな壁。あと何年もしたら、たたけばすぐ壊れてしまう物に違いないと思うけど、今の自分にとって体当たりするのが精いっぱい、いや体当たりする勇気を出すのが精いっぱい…。

☆

☆

☆

ハイハイとて言うことをよく聞く。でもその裏には多大なる自我が横たわっているのを私は知っている。ウラミごとは明日への活力へ、常にどうしたらよくなるか冷静に考え、建設的な意見を持ち、日々のあらゆる事象を自分の糧にして生きて行く、そんな娘である。春になったらスカイラインでカットびネーちゃん。料理と裁縫の腕をみがいて北水のたよれるカアちゃんにもなってほしいなあ。

純粹で単純な田舎娘かと思えば、スキノで夜のバイトをしていたという噂もある。過去に失敗の経験でもあるのだろう。結婚はしないと言い張る。料理は苦手だがドジは得意。皆に惜しまれながら札幌を去ってしまった彼女だが、これからは水産学部馬術部員として、きっと頑張り抜いてくれるだろう。

札幌市指定第一種水道工事業者第198号  
札幌市排水設備業者登録番号第209号  
北海道職員互助会指定工事店

管工事業

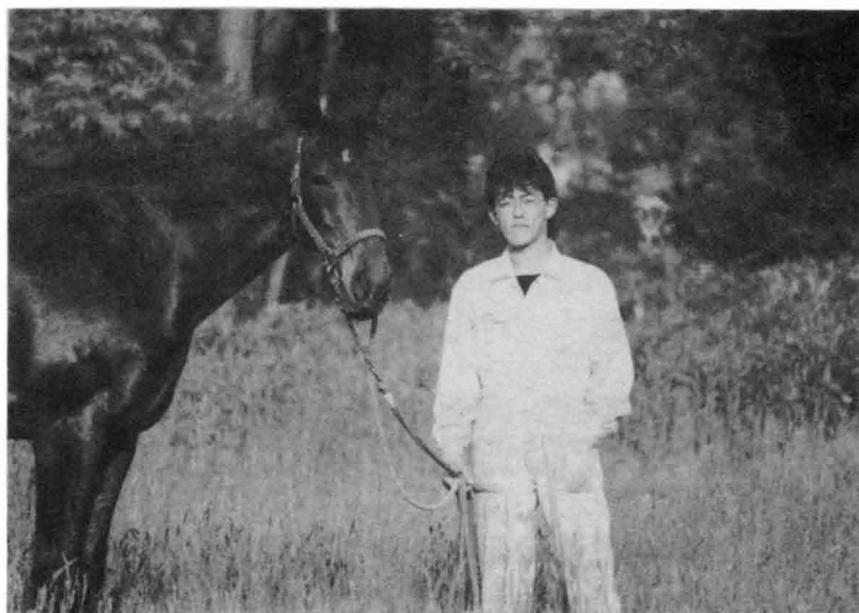
**日章冷熱株式会社**

札幌市東区北19条東2丁目12番地88

電話代表 (742) 7273番



〔4年目〕 上段左より 中村 西村 陣川  
 中段左より 半田 真鍋  
 下段左より 佐多 福島 高田



〔3年目〕 ドン・ホッパー、服部

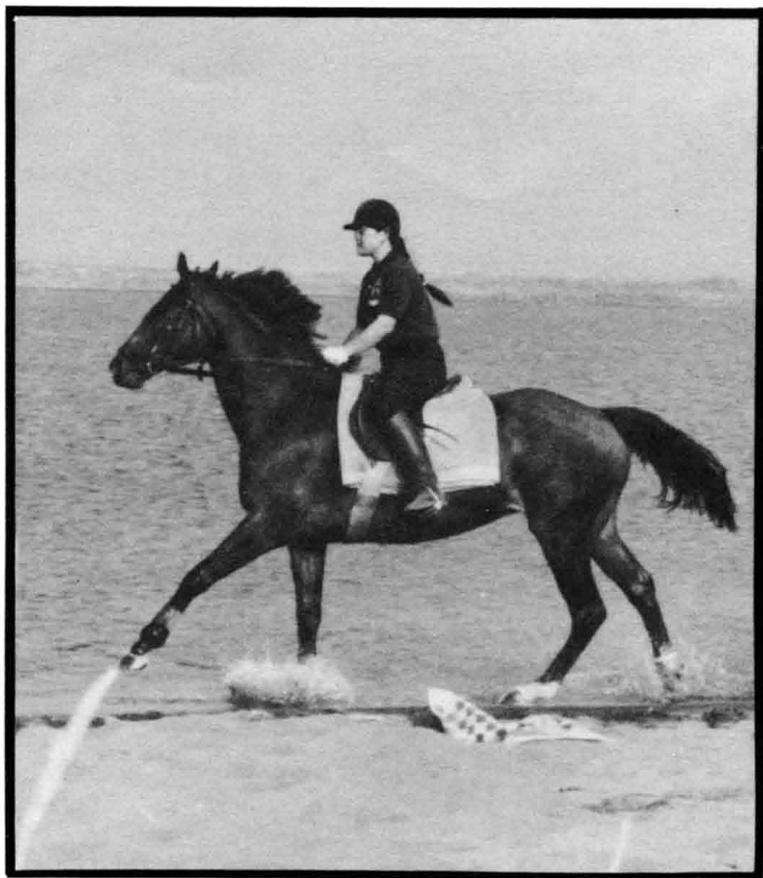


〔 2年目 〕 上段左より 加藤、中野、古川  
下段 大歳、高野、北川、荒井、金田、山本



〔 1年目 〕 上段左より 友久、石川、仲村、湯浅  
下段 小嶋、五味、森

福島姉を偲ぶ



在りし日の福島姉

## 福島光絵君の急逝を悼む

部長 小池 寿 男

福島光絵君の急逝を知らされたのは、昨年の11月1日の午前10時05分であった。10時20分発の飛行機に乗るために千歳空港の改札口に並んでいたところを呼出されてそのことを告げられた。事情はよくわからなかったが急拠上京を取止めて帰札した。

その前日の午後の獣医学部大学院研究科委員会で福島君たちの昭和62年度修士入学試験の合否判定がされ、彼女は私たちの家畜外科学講座で修士課程の研究をすることが決り、そのことを告げて帰宅したばかりであり急逝を知らされても直ぐには信ずることができなかった。

福島君は私が馬術部の顧問教官をしている関係から獣医学部に移行すると直ぐに家畜外科学講座に行くようになり、以来2年余教室員として勉強してきた。現在獣医学部への移行には相当に勉強しなくてはならず、移行してからも獣医学部のカリキュラムは相当に過密とさえ言えるものであり、馬術部のようにかかなりの時間と労力を要する体育部の課外活動との両立は男子学生でも大変なことである。それにもかかわらず福島君は常に笑顔を決やすことなく修学し、学部を終えて大学院にまで進もうとしていたことは強い意思と人にしれない努力をしていたものと思われる。それが大学院入試合格の喜びの直後の急逝は悔やまれてならない。

学部の3・4年は馬術部では馬匹係として事故馬の処置なども私の指示にしたがって適確な処理をして部員の乗馬練習に支障の無いように努力していた。長い髪を風になびかせながらバイクに乗って時間を有効に使い、走り回っていた姿が目につかぶ。今も研究室の彼女の机は空席のままになっており、髪をなびかせ笑顔で入ってくるのではないかとの錯覚にとられる。

学業半ばでの急逝であっただけに、御家族にとっては今でも何かと心残りのことと思われる。心から福島光絵君の御冥福を祈る。

( 6 2 . 1 . 3 1 )

## 福 島 へ

長 屋 清 隆

俺がこんな事書いたら、おまえのことだから、

「長屋さんも、意外と〇〇〇〇ですねッ」

とかなんとか言いながら、ククッと笑うんだろうな。

「久しぶりにスターライトの顔を見に行くか」急に思い立って、いつもより早く起きた。ニンジンを持ち、いつもと違った道を通って北大病院にさしかかった時、北大通りのずっと北の方から消防自動車のサイレンが聞こえてきた。「俺んちじゃないだろうし、まさか福島んちでもあるまいが……」  
何となく気になった。

ライトの御機嫌伺いをすませ、馬場で馬に乗っていた時、どういうわけか、これまた北大通りを走って行く救急車のサイレンが聞こえ、そしてそれは今も耳に残る。

午前10時半過ぎ頃、会社に電話がかかってきた。息せき切った山田君の声であった。

「突然なんですけど」「また誰か事故なのかな?」「けさ福島が」「あいつが?」

「亡くなったそうです。」「……ナクナッタ?」「僕も今聞いたばかりなんですけど。よくわからないんですけど、急性心不全で、今、市立病院に居るそうなので、これから僕も行こうかと……」  
「ナクナッタ? イッタイ何ノ事ダ? ドウイウ事ナンド、ナクナッタッテイウノハ?」  
駆けつけた病院の霊安室で、おまえは、おまえらしくもなく、いかにも寒々として横たわっていた。

「いつもと違った顔をしてたらどうしよう」何故こんな事しか思い浮かばないのかわからなかったが、どうしてもおまえの顔を見る勇気が出なかった。涙も出なかった。ストレッチャーに移す時、頭の下に添えた俺の手に、髪の毛だけが柔らかくまとわりつき、おまえの髪の毛の香がいつまでも残った。

最後の別れを告げるべく、一晩ご一緒させていただいた御通夜の席で、線香をあげながら、おまえの遺影に向かう。「おい、起きろよ、起きるんだ。さあ、蓋をはねのけて。お願いだから。早くしないとおまえは焼かれてしまうんだよ。さあ早く……」夜が明けるのは、こんなにも早いものなのか。最後に見たおまえの顔は、いつもと変わらなかった。あの切れ長の瞳を閉じたままである点を除けば。

最新の設備が整い、火葬場とはとても思えぬ里塚斎場、その10号炉。既にかたく閉ざされた扉の脇には、「福島光絵殿」の名が。

どこからだろうか、かすかにゴォーッという音が聞こえる。空調の音なのか、それとも……。無性に中へ飛び込みたくなる衝動を押さえ、扉を見つめる。もう遅すぎる。奇跡は起こらなかった……。

前日の朝、おまえに「(チアフルの)肢の調子どうですか?」と聞かれて、「具合はようわからんけど、跛行はしてない」と答えたのが、最後の会話となった。着替えてスクーターに乗り、視線を交わしたところで、おまえは永遠に動きを止める。

獣医の同級生に話を聞いたよ。恐らく最後に口をきいた人物であろう村上君にも、親友の吉松さんにも。今思えば、死を予感したような言葉を口にしてたとか、その一方で、明日の朝はミヨコに乗りに行くんだと言ってたとか。

それにしても、あんなに元気だったおまえが、急性心不全なんぞで死にしまうなんて。もっともって生きていたかったらうに。眠りにつく前、おまえの脳裏をよぎったものは、何だったのか。

あの日以来、お母さんや近所のおばさんたちの話を聞き、写真を見て、おまえの人となり、人を惹きつけずにはおかない、不思議な魅力の謎の一端が、やっとほんの少しだけ見えてきたような気がする。

22年間の歳月を、おまえはめいっぱい駆け抜けたんだね。辛い事も悲しい事も、ましてや睡眠不足なんて、ものともしなかった。おまえの22年の人生に、一瞬たりとも無駄な時なんてなかったんじゃないのか？ どうしてそれを2倍にも3倍にもしてみせなかったのさ？ せめて……………。

言い出したらきりがないよな。自称「あきらめの早い」、そして常々、どんなに悲しい事であっても、それにこだわり続ける事ができないと言っていたおまえだから、ウンザリしている顔が目に見えちゃう。

もうやめよう。人より短くはあっても、しあわせな、充実した人生だったに違いないもの。そうだろう？

おまえを失った、この悲しみを癒さんが為に、何かにすがろうとは思わぬ。神も仏もあるものか。ただ、おまえの魂が、お母さんの傍にあり（もうそろそろ親孝行してもいいだろう？）、そして時には、馬たちと共に、我々と共に、障害を飛び、野外を駆け、草を刈り、酒を飲み、笑い声をあげ、あるいは試合の緊張感にその身を震わせていてくれる事と信ずる。

（ミヨコが最近、狂う事があるけれど、おまえ、何かささやきかけてるんじゃないの？）

現役部員たちはみんな、おまえの思い出を胸に、頑張ってくれると思うよ。頼りない連中だなんて歯がみしてないで、どうか見守っていてやってくれ。みんなと共に喜び、みんなと悲しみを共にしてほしい。それは、永遠に22歳の若さを保っていられるおまえにしかできない事なのだから。

おまえの笑顔、辛くてもめげてもすかさず立ち直って、前へ前へと明るく生きてきたおまえの強さ、やさしさ、そう、おまえの思い出こそが、後輩たちへの最も大きな財産であるに違いない。

オジサンとしては、おまえにいい思いをさせてやれなかった先輩としては、まだとてもふっきれないけどね。情けない。ちくしょう！

あの世というものがあるそうなの。もしそれが本当なら、いつかまた「逢える日」を楽しみに……………な。

朝、厩舎の中でニンジンを切りつつ、ふと馬場の声に耳をすます……………

「おとし、おとしーっ！ 何やってんのー！」

あの声が聞こえてくるような気がする。

おまえの百ヶ日も過ぎようとしているのだけれど、まだスターライトに会いに行く気にはなれないんだよ。

## 親愛なる友へ

陣川 雅樹

いったい何を書けばいいのか？　あまりにも突然だった。あんなに元気なみつえが、つい昨日までピンピンしてたみつえが……全く信じられなかった。

みつえと出会ったのは4年前。馬術部に入部した時で、彼女はすでに4月14日に入部していてオレよりも早かった。1年目の頃は、無口で時々きついことを言う女の子だなという記憶しかない。よく話すようになったのは2年目の秋、一緒に馬匹の役職についた時からであった。お互いに、あいつより早く薬品を覚え、上手に注射が打てるようにと密かに闘志を燃やした。そして3年目の秋からはけんかしかなかった。作業隊長になったオレに「もう仕事ないの！もう終わり！もっとパッパッと人割りしてよ、考えてんの！」「うるせーな！」、作業の度にこうであった。オレが主将になってギャランに乗り始めてから、つまり4年目の時は、ギャランのことでいつも文句を言われた。「そんなやり方じゃだめよ、町田さんは……」。コンパの席で何回か酔ってからまれたこともある。「ギャランはね、満点馬なのよ。あんたがダメだから落下するのよ。私だったら満点で帰ってこれるわ。」「ええって、オレが乗って明日満点で帰って来る。」「おおそーか。ほんとだなぁ！」……と遠々と続くのである。3年目に乗っていたギャランが気になって仕方がなく、胴甲斐ないオレにイライラしていたのだろう。また、馬の出し入れの時、最後まで馬の味方をして意見をいったのもみつえだった。どんな馬でも可能性はあるのだ、その可能性を人間が最大限に引き出してやらねば、という考えの持ち主だった。それを実現させたのが北姫号（ミヨコ）であった。オレなんかはたぶんあかんやろう。と思っていた。しかし、畜大のステイブルもアクシデントでタイムオーバーだったが帰って来たし、旭川の道体までも帰って来てしまったのだ。最後まで絶対あきらめない。現役諸君には是非見習ってほしい。

まだまだ書ききれないほど思い出はある。もちろん4年目の女子ならもっといろんな話を知っているだろう。たぶん4年目各人が各々違う思い出、考えを持っているだろう。けどこれだけは全員心に誓っていることがある。それは、みつえの分までがんばろう、という思いである。

最後に、本当はこんな文体で書くのは非常識なことなのかもしれない。しかし「なに堅苦しい事、書いてんだよ。こんな文章、甲辞で十分だよ。」と、みつえに言われそうな気がして……。

今頃、天国でまた馬に乗って走り回っているに違いない。みつえのことだから。

— 昭和61年12月25日 —

## 「皆、福島さんが大好きです。」

加 藤 ゆうこ

こういう形で福島姉のことを書くことになるとは思ってもよらなかった。思ったことや感じたこと、実際の出来事などを文字化して残すことは非常に大切なことだと思うが、時にはその文字化によって、思い出が薄っぺらなものになってしまうことがある。私が福島姉のことを書かせてもらう前に、これを読まれる方にまずおことわりしておきたいのは、そのことだ。もし皆さんの思い出が、この文章で薄っぺらなものになってしまったら、本当にごめんなさい。

入部して約1カ月たち、私は北皇子のサブチーフになった。この時、福島姉も同じ北皇子のサブだった。私はなぜか体温計を立て続けに何本も割ってみたり、ブラシかけをしては噛みつかれてアザを作ってみたり、相変わらずドジな事をやっていた。福島姉はそういう私によく、あちこち食いちぎられたスタジャンを見せては、「ほら、これみーんなギャランにやられたのよ。」と励まして(?)くれたのである。獣医学部の授業で忙しい姉は、夕当に來れないことがよくあったが、暇を見つけては、白衣姿で部へ立ち寄り、北皇子だけでなく、他の馬の四肢や背中を診て、部員に治療等の指導をしてくれた。私はこの頃から、福島姉の白衣姿に憧れ、——絶対獣医に行こう——とはかない決心をしたのだった。練習が終わって女子部室で着換えていると、よく福島姉が、ポットに入れたコーヒーをグイッと飲んでいる姿を見た。「これで絶対、寝ない。」と姉は言っていた。なんでも、福島姉は非常に暗示にかかりやすいタイプで、正露丸にしても「これを飲むと絶対にお腹いたが治ると思って飲んでるから、だんだん匂いを嗅いだけでも治るようになったの！」だそう。これを聞いた私は、さっそく翌日より、コーヒーを練習後に飲むようになったのだが、一週間目にして胃を悪くし、風邪をひいてしまった。こうして獣医への夢は1歩前進2歩後退となっていった。そして私は獣医学部に行けないまま、福島姉の後を継ぎ馬匹をすることになる。馬術部を一応引退した姉だったが「馬匹相談役」のような存在であり、未熟な私はいつも助けてもらってばかりいた。姉の家や学部で「ヘルプコール」を何度も何度もかけていたが姉は毎回嫌な顔もせず、馬術部へ足を運んでくれた。姉のやさしさは、こんな風に、いろいろな形で部員に伝わっている。

福島姉の思い出はもっともっとあるけれど、私はそれを言葉にするのが下手なので、これくらいで留めることにする。一人一人の胸に福島姉のことは深く刻まれているだろうし、それは各個人で異なると思う。皆、福島姉が大好きだ。だから、それぞれの人の心の中で、福島姉の思い出が暖められているに違いない。福島姉が私達に残してくれたものを大切にしていきたい。皆、同じ気持ちだろう。

福島姉が現役の頃から、迷惑のかけっぱなしだった私達は、これからも姉に見守ってもらえたら……と、あつかましくも思っている。きっと姉はまた快く引き受けてくれるだろう。これでは、いつまでたっても姉が安らかに眠れる日が来ないノ—— そうならないよう、私達ががんばります。そして皆、福島姉の御冥福を心よりお祈りしています。

## 福島杯について

急死なされた福島姉の御冥福を御祈りし、福島姉の家の御厚意により、昭和62年度から北日本学生馬術大会における総合競技（3-DAY-EVENT）に福島杯を設けることが、昭和62年3月7日の北日本の幹事会で決定しました。





**Polo**

by Ralph Lauren

**NAIGAI**

株式会社 ナイガイ 札幌市中央区北10条西23丁目2番地  
TEL 611-5181



春だから ホクも あなたも

行動派へのパスポート



北大生協指定

北25東1 札幌川沿い  
只今、新入生、大歓迎募集中！  
711-3344

北海道公安委員会指定・技能試験免除  
**北海道中央自動車学校**

木材 建材 一般金物 塗料 建築金物

有限会社 **まるへい商事**

札幌市北区北24条西5丁目 ☎736-5331 ~ 3

**中古車と整備**

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎726-1526

## 明るく新切で教習抜群の指定校

教習時間

8時～12時

- 北大生協加明(割引をしています)
- 料金は全員安心コースを適用します(入校時は割引料金のみで補習あれば一定額で打ち切り)
- 短期着成コースがあります。(1日2時限教習)
- 無料送迎バス運転中。(6系統)(徒歩でも至近路離)
- 普通車、自動2輪セットは料金格安です(同時教習します)

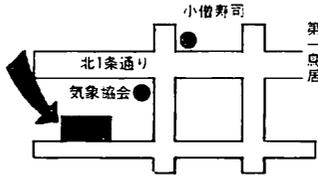
公安委員会指定  
技能試験免除

# 桑園自動車学校

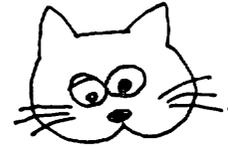
普通車・自動2輪

札幌市中央区北8条西14丁目 ☎271-7511

## 三國犬猫科医院

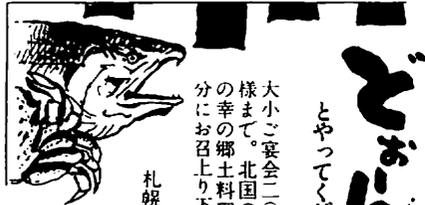


中央区北1条西23丁目気象協会裏  
☎621-0711



獣医師

三國 宏(院長)  
三國 紀朗



札幌市中央区狸小路六丁目  
北国のみやげ処  
**屯田舎**  
☎211-0533

とやうてくごさい。  
大小ご宴会二〇〇名  
様まで。北国の海山  
の幸の郷土料理を存  
分にお召し上がり下さい。

もしも  
**241-2700**  
予算外の他お交際どうぞ!!

北国の郷土料理の店  
**屯田舎**

・午後5時から  
・午後1時まで  
(年中無休)



お客様とのふれあいを大切に...!  
食卓に豊かさとお話をとおとどけ  
します。

LIQUOR&FOODS  
**K**

北22条 **よこやま**

■営業時間■ あさ10:00～よる1:00

北22条西5丁目 ☎716-3593 年内無休



馬具 shop  
**REITER**  
ライタ



札幌市北区北32条西9丁目  
TEL 716-5779

学生さんには  
ネタもシャリもジャンボ  
とにかくジャンボ  
ネタは同じ

舌鼓 **鮪の正本**

コンパは30名様までと  
40名様まで

11:30~1:00

北16西 4 北向

☎746-4231

## 大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

**FRONTIER HOLIDAY RANCH**  
フロンティアホリデイランチ

〒061-33 北海道厚田村しっぷ165の3

TEL (0133)66-3858

## 札幌地区大学生組合価格

ソフトコンタクトレンズ (18,000/20,000)→12,000円 ハードコンタクトレンズ(15,000)→10,400円  
酸素透過性ハード(19,000)→13,600円 普及型ハードコンタクト(14,000) 8,000円

健康保険証を御持参下さい。

その他、各種取り揃えております。( )内はメーカー希望小売価格です。

◎ **札幌駅前コンタクト**

札幌市中央区北4条西3丁目(北海道銀行駅前支店ビル内)

(011) 222-2122 営業時間/月~土曜日 AM10:00~PM6:00

ジーンズショップ「ランド22」では今、大流行中のジーンズをはじめとして店内いっばいにファッション山積み!

作ってみませんか?

オリジナルトレーナー・Tシャツ

◁ 自分選だけのオシャレで皆が注目!! ▷



SOENDO GROUP LAND22&LANDUSA

LAND 22. 札幌市北区北22条西4丁目 ☎716-3923

LAND USA. SAPPOROURASANDO・KOTONI  
MURORAN・BIBAI・KUSHIRO

腕旗附カバトメタ手記記出  
幕属ブッロダオ念世  
章織品桶チイルル拭品章兜

各種製造販売元

山禮式国旗掲揚器発売元

株式会社



山禮

〒060 札幌市中央区南1条西7丁目

札幌(011)大代表241-1641番

受信略号「サツポロ」ヤマレイ

取引銀行 拓 銀 本 店

振替口座 小 樽 2 9 0 9 番



ボリューム満点 コンパ200人までOK!

やきとり 居酒屋 きよた

当日誕生日の方に粗品進呈 新歓コンパ 受付中!!

宴会・御商談にご利用下さい。

札幌市北区北17条西5丁目北向 電話 747-7000

### 〈広告主へ感謝のことば〉

このたび、昭和60年度北大馬術部部報発行に際し絶大なる御援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げますとともに諸社・諸店の御繁栄を礼り、ここに深く感謝致します。

(北大馬術部)



土 木 ・ 建 築 ・ 設 計 施 行  
造 園 ・ 塗 装 ・ 設 計 施 行

# 道協建設株式会社

代表取締役 美馬 久之

札幌市中央区北 1 6 条西 1 6 丁目  
札幌競馬場中央通用門前

電話 716-6455  
726-6756・6752

## 編 集 後 記

3月31日に発行する予定の部報が3ヶ月もおくれをとっての発行となりました。これも編集委員の怠慢と深く反省し、お詫び申し上げます。

さて今年の部報の特徴を申し上げますと「調教報告」のみを別冊としたことです。これは「調教報告」は頁を多く占め、特に意義深いもので、執筆していただく方に十分時間をかけていただこうという意図からです。福島姉の急逝のため、「福島光絵追悼集」を載せることにもなりました。突然の御不幸に今だもって信じられません。改めて御冥福を祈りたいと思います。

原稿提出には間に合いませんでしたが、北姫号、北紫雲号が5月29日に離航しました。北姫号はOBの川俣さん(旧姓折橋)に、北紫雲号は十勝柏友会の久保田さんにそれぞれ乗っていただくことになりました。

最後になりましたが原稿を寄せて下さったOB、現役の方々、その他協力して下さった方々に御礼申し上げます。この部報がみなさまに愛される部報となることを願って筆を置きます。

編集責任者 石川、森

### 部 報 第32号

昭和62年6月 発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

TEL(011)716-2111 内線5597

TEL(011)737-1626(直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

表紙 服部雅史

